琉球大学学術リポジトリ

琉球舞踊譜 (4) : 男踊り・上り口説譜

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学教育学部
	公開日: 2014-11-28
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 金城, 光子, Kinjo, Mitsuko
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/29944

琉　球　舞　踊　譜　(4)

～ 男踊り・上り口説譜 ～

金　城　光　子

Ryukyuan Dance Notation (4)
The Notation of Man's Dance Nubui−kuduchi

Mitsuko KINJO*

(Received 30, April 1992)

Abstract

"Nubui Kuduchi" was first performed almost 250 years ago. As a messenger from the Ryukyu kingdom, this character describes happenings during the travel and expresses his feelings on the way to Satsuma with brisk and powerful motion. This paper focuses on the natation of this dance. First, the movement of the body will be shown by the pictures. And after the brief discussion of the notation, it will be proposed that the combination of the picture-figure notation, fugo notation, and the symbols are appropriate to describe the dance in concern. The balance of this paper will concern the explanation of the dance, the songs and the way to dance.

1. 琉球舞踊の分類

- ◎ 芸術舞踊
  - 宮廷舞踊（冠船踊）
    - 舞　踊
      - 若衆踊
      - 女　踊
      - 二歳踊（男）
      - 老人踊
      - 打組踊
    - 組　踊〔古典劇〕
  - 芝居舞踊（雑　踊）
    - 男　踊
    - 女　踊
    - 打組踊
  - 現代創作舞踊

2. 男踊りの技法

- 面使い……面のアテ・首の左右振り・目線
- 体使い……腰使い・二段バネ・二重ガマク
  跳躍
- 手使い……こぶし手・突き手・押す手
  扇使い・杖使い・獅子使い
- 足使い……足拍子・膝割り・歩　行
  交差足・回り足・上げ足

*Phys. Educ., Coll. of Education, University of the Ryukyus.

3. 男踊りについて

(1) 男踊りの魅力と特徴

古典芸能が琉球王朝時代（14～19世紀）に首里の王城で様式化された宮廷芸能であり，この舞踊（芸能）が「御冠船踊」と呼ばれていることは周知の通りである。

宮廷では“踊り奉行”の役職を置き，芸能の創作活動と同時に踊り手をも養成したのである。男性振付師による男性の踊り手の鍛練は，男芸も女芸も各々の魅力ある表現と特色を如実に演ずるいわゆる「芸域」と「芸風」との両者を作舞し演舞する修業に励んだ事は容易に想像できる事である。

琉球は中国との臣属関係にありながら一方では大和（さつま）の侵略を受けるという両国との交流があった事も歴史的な枠組の一つである。

踊りは大別して男踊り，女踊りとして構成・演出し様式化された。

男踊りの基礎的要素として考えられる事は，本来沖縄の人々の技法としての空手（ティ）を基底とした，男らしく，りりしく，勇壮にしかも重厚さであり，これらの要素を組み入れて生み出された踊りの技法が，女芸とは対照的な“心意気”と“ダイナミック”に演ずる芸に仕上げられている。また，外来の踊り文化をうまく消化した形をつくりあげ，それが魅力の一つにもなっているものと思われる。したがって，男踊りの技法の要素的動作を主とするものは，

「こぶしを握る」「突く」「けり上げる」「とび上がる」「せめる」「受ける」などの「武」と「舞」の調和的リズムが，スピーディで鋭角的な形と力性が迫力，活発さとして特徴づけられている。

以上のように，外来の中国文化（アジア）と大和文化の両者の男芸風を吸収しながら独特の民族文化を誇りにした力量感のある男芸様式に仕上げたのが「男踊り」である。

(2) 男踊りと「口説」

男踊りは，男芸の要素である力性と躍動感を「口説」の音曲に乗せることで表現効果を高めていることも見どころの一つである。

「上り口説」「下り口説」「道行口説」「坂原口説」「四季口説」「道輪口説」「揚口説」「黒島口説」「十番口説」などによるいわゆる「口説踊り」は，拍子，速度，強弱，アクセントなどによる七五調の歌詞を四拍子のリズムに合わせて表現し，語っていく直線的な男芸技法を形成し様式化するのに適切であった。

「口説」（くどき・kuduchi）は，近世になって八八八六調の琉歌形式ではない，七五調の詞型の歌謡であることは諸専門家の説くところである。

例えば，「上り口説」は宮廷の使者が，さつまへ行く道中を淡々と語り叙述する「口説」であり，また，「下り口説」は，大役を果たした使者が大和から帰途につく道中を謡いあげたものである。すなわち，「口説」は，和文形式の中に道中の様相（状景）を歌い綴っていくところに表現技法と調和してその魅力と特徴となっているのである。その他「道行口説」の外に本土から来た大道芸，遊芸人の京太郎などの芸の影響も受け，「黒島口説」「宮良口説」などのように島々，家々を巡回して歌いつづる「口説」の存在が男踊りの活発で力性のあるリズミカルな手法とうまく調和して今日各々の特色をうたいあげ，踊り継がれている男踊りの様式とみてよい。

現在踊られている「上り口説」「下り口説」なども，踊りと踊りの間の間奏部分に“うたむち”に合わせて“語り口説”という形式が原点にあったと思われる。その語りを「口語ばやし」と呼び，現在も演舞され楽しまれている典型的で一般に広く知られている。その代表的なものが「黒島口説」であり，また「上り口説ばやし[①]」も「口説舞踊」としての典型的なものの一つである。

(3) 男踊りの技法

男踊りの　①足使いには，“男立ち”“構え”“歩み・運び”“回り方”“曲げ伸ばし”“突き足”“足拍子”“切り返し”“とぶ”などがあり，

②手使いには，“こぶし手”“平ら手”“左右開き”“切り返し構え”“帆かけ手”“枕手”“手拍子”などがある。

③体使いには，“膝割り”“ガマク入”“二段バネ”“半身構え”などがあげられる。

手踊りや小道具扱いなど男芸は直線的な拡大性が，りりしさを表現し，手使い，足使い，体使い

は三位一体となって男性を象徴し，男らしさの気がいと動きの流れを形づくっている。

さらに，沖縄の踊り技法の大きな特色は，右手と右足，左手と左足が同時性であり，独自の表現方法としてバランスのとれた，「手・足・体」と「呼吸」の一体感を生み出している点は特筆される面である。「技を技で止めずに息で止める」といういいつたえは呼吸と動作の強い結びつきを表現している。

「高平良万歳」の分析技でも見られるように，

① こぶしを握りまわして前方に突く
② 両手左右に開きあげる
③ 二段バネによるねばり強さと柔軟な技法
④ 二重ガマクの安定性の技法

など，男らしさを強調する。

⑤ 重心を一定にし，体の形を定位に保持した跳躍動作

すなわち腰を低く，下降して重心を一定にして安定させる男踊り技法がたくましさの屈曲性の技法となり，見るものに力量感を与えている。

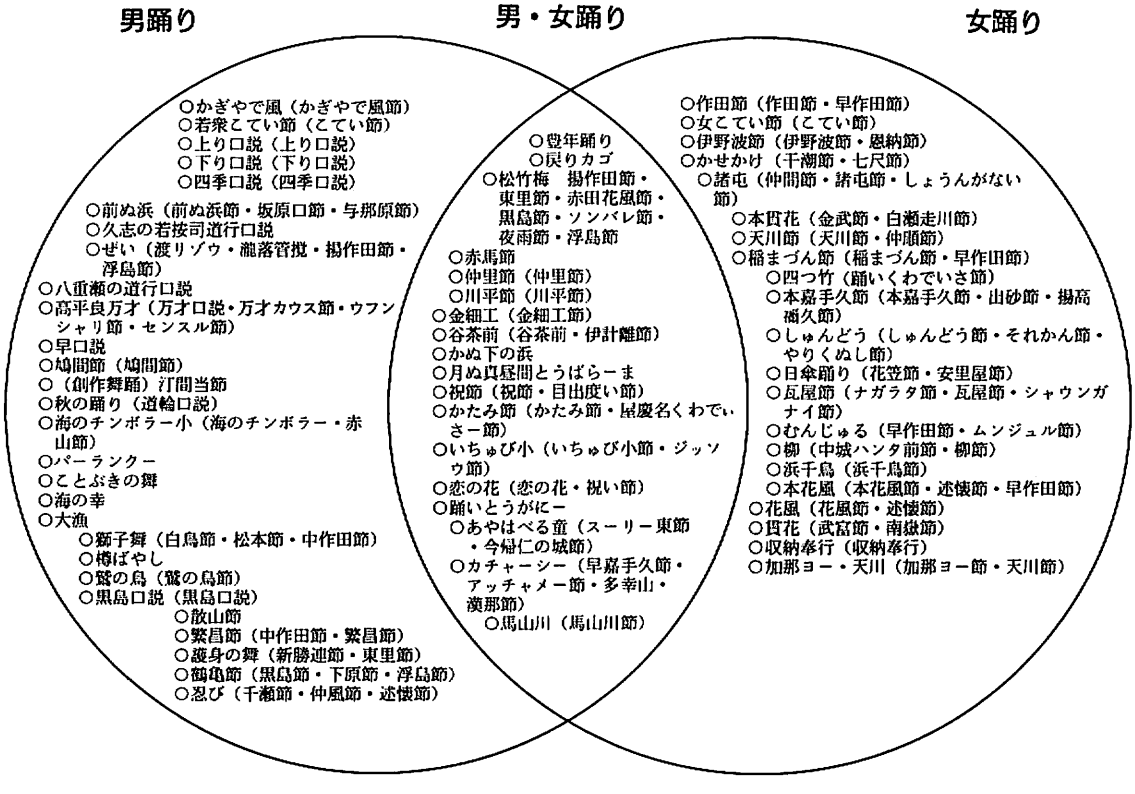
(4) 男踊りと音楽・地方

琉球舞踊の男踊りは，男性的力量感と力性を如実に表現するための伴奏楽器の音色の特質と演奏と歌（歌・三味線）は大切な要素の一つである。

そのためには，先述の「口説調」で踊る男踊りは打楽器，特に太鼓の音が踊りの効果を助ける大きな役割をになっている。“足拍子”に力強く調和してくれる“タンタン”という太鼓の音は，男芸の音と技の息の合った動作のダイゴミといえる。

4. 踊りの分類と特性

(1) 舞台舞踊を，「男踊り」と「女踊り」と「男女の踊り」の三つに大別したのが次の表である。



(2) 男踊りの構成

踊りは，一曲で一つの踊りを構成し作品としている場合，例えば，「かぎやで風」「若衆こてぃ節」「上り口説」などがあるが，二～三曲を組合わせて，歌いついで構成している場合の二通りがある。例えば「高平良万歳」は“万歳口説”，“万歳かふし節”“うふんしゃり節”“せんする節”の四曲で構成されている。又，始めの曲は静的なもので，後半は“チラシ”といわれるようにテンポの速いもので組み立て，「序破急」の形式をもつことも特色である。

(3) 男踊りの形式と技法

男踊りは，主として琉球王朝の御冠船踊りとして作られたものは，琉歌の八八八六調の歌詞と古典音楽で格調高く静かに踊る。

① これは，「口説」の七五調のリズムの速いテンポの踊りとは対象的である。

② 男踊りの技法と形式の基本的な要素は次のとおりである。

(1) **姿勢**：体を真直にして腰を伸ばし，下腹部に力をいれて下腿部をしめ，肩の力をぬいて両腕は前方に伸ばして安定感を保つ。

(2) **立ち方**は，八文字のように爪先を肩幅の広さに開いて立つ。足裏をしっかり床面につけ両足に平均に重心をかける。

(3) **歩き方**は，足裏で床を摺りながら歩を運ぶ“摺り足歩行”歩くとき足の裏をみせないようにして重心を安定させ，“かかとからつま先へ”重心を移行させる方法が原則である。

(4) **突き方**は，左足を出して曲げ重心を移し，右足を摺り出し重心をかけながら左足を右足後にそえる方法で行う。

(5) **“右小まわり”**は，①右足先を右外に向けて出し，②その足に沿いながら左足を右横へ摺り出し，③からだを右へ回し左足に重心をかけながら，両膝を曲げ，③右足先をピポットして進行方向に向ける。

“左小まわり”は，左足を左外に向けて出し，右まわりと同方法で行なう。

(6) **まわり方と立ち方**は，左（右）足先を左外に向けて出し，その足に沿いながら右（左）足先を左横に出し，体をまわしながら支持足をピポットさせて，かかとを揃える。次いで，右足を横に出して開き八文字立ち，男立ちとなる。

(7) **切り返し構え**は，男立ちから，左足を斜後ろに引き上体を側面に向けて，両膝を曲げて右手を体側に沿って垂直に下ろす。

(8) **切り返し**は，切り返し構えから右足先を右外に向けて出し，体を前面に向けて正常位に戻すと同時に，右手を下からあげ，体前へまわして下ろす。

(9) **アテ**（面アテ・手のアテ）は，手又は面（顔面）を少し力を入れて軽くたたくような感じで瞬間的に技を止める。面を向ける，手をあげるなど動きの流れの休止符とアクセン的性質をもつ。

(10) **両手の体前交差と左右開き**は，右手左手と交互に上から内側へまわして体前下で交差させ，体前から頭上へ押し上げて左右に開く。

(11) **足拍子**を打つ：足拍子を打つ時片足裏を下方に向けてあげ床を打つ，上げ足は支持足に沿う。

5. 男踊りの表現特質性

(1) 男踊りの特性

口語調の男踊りは，テンポの速い軽快なリズムの曲調に乗って直線的で安定感のある重厚な動作によって踊られる。したがって，女踊りのように内面感情を表現するのではなく，主として道中（道行）などの情景描写と男性の雄々しさを振りに表現する表現特質性をもっている。

力性を「足拍子」“トントンと左右で床をふむ”ことで強調し，西洋舞踊のように“床をけって空間へ高く飛翔する”日本舞踊のように“見えを切る”“日常動作的しぐさ”などがみられない。特に「高平良万歳」には“床をけって跳ぶ”動作があるが，体の重心を安定させ保持した形のまま跳ぶ”という手法である。

(2) 男踊りの舞台上の移動

舞台平面上の移動を図－1に示した。

出羽（登場），入羽（退場）の方法は2種類に分類される。「出羽」は①下手から上手への対角線を舞台中央へ出る方法と，①下手から舞台中央

奥へ出る方法。「入羽」は①上手から下手への対角線上を舞台中央から下手へ入る方法と，②舞台中央奥から下手へ入る方法である。

踊りの主な舞台平面上の移動①出羽・入羽が下手と上手の対角線上で行なわれる踊り“出羽踊り”もこの対角線上で踊られる。“中踊り”“入羽踊り”は，舞台中央奥と正面の直線上の往復で踊る形式をもつ。②出羽・入羽が下手と舞台中央奥で行なわれる踊りは，舞台中央奥と正面の直線上の往復で踊る奥行舞踊の舞台移動の形式をもつ。

(3) 踊りの歩行・歩み

踊りの動作は，「摺り足歩行」を主とした“歩行形”舞踊である。基本の立ち方：男立ちは，両足を八文字に構えるので“八文字立ち”ともいわれ，この男立ちは，踊りの一まとまりの表現動作の開始と終始の要となる。したがって，踊りは基本の構え（男立ち）から開始され“男立ち”になって終止となる形式である。

(4) 突き方

突き方は，前方と斜前方に多く用いられる動作である。「左足をまげて膝を外に向けて出し，右手を体前に引いて，右足を摺りだし，右手を突き出すと同時に右足後に左足をそえ，手と足で突き前方へ押し出し」“男立ち”となる。

(5) 上肢と下肢の動きの範囲

図3－(1)，(2)でみられるように，上肢と下肢の動きの軌跡概略をみると，上肢は肩の線を水平に保持したまま，両腕は体側より体の前面部で動作し，伸びて伸びきらず，曲げて曲げきらずの常にバネ（余裕）を残した曲線的軌跡を描き，上部へのカーブと下部へのカーブを描いていく。下肢は，1歩の歩幅が約1足長で特定の動作の構えが約1足長半か2足長で，身体の垂直線の安定とバランスを保持したまま歩を運び，回り，突き，足を交差するという形をとる。

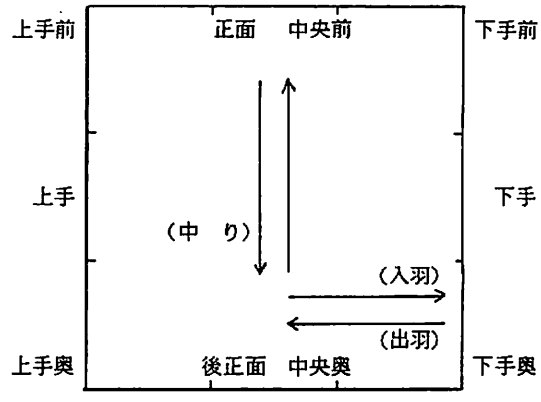


図1　舞台上の移動軌跡
かぎやで風，上り口説など

(6) 動作の水準（高低）

腕，手の移動はからだの動きと対応して一体感をもち，動作の広がりに量感をもたせながら常にならだかな曲線を描く。動作の高低の水準は，“床をけって跳ぶ”動作と床上に足をつけて立つ基本姿勢を高位とし，膝を曲げた状態を中位，膝を床につけて坐る状態を低位とする。

(7) 男踊りの基本的な姿勢と構え

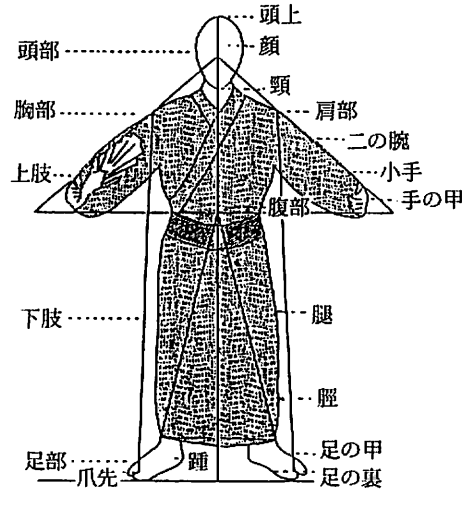


図2－(1)　男立ち（八文字立ち）
〈前面図〉

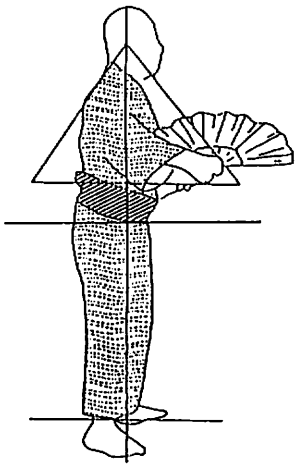


図2－(2)　男立ち（八文字立ち）
〈側面図〉〈

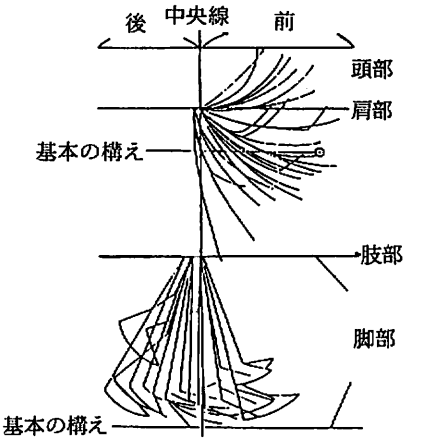


図3－(2)　右側面からとらえた上肢と下肢の動きの軌跡概略図

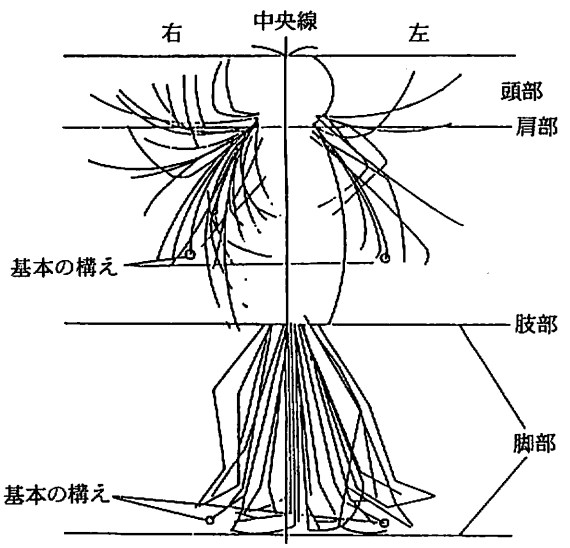


図3－(1)　前面部からとらえた上肢と下肢の動きの軌跡概略図

6.　上り口説の解説と特徴
(nubui kuduchi)

(1)　踊りの概要

こほ歌は250年ほど前に，琉球音曲の大家屋比朝寄氏によって作られたと伝えられている。男（二才）踊りの代表的なもので，「下り口説」や「前ぬ浜」などと同様に，若者のはつらつとした動きの踊りである。琉球王朝時代に王府の使者が薩摩へ上ぼるときの道中の様子を七五調の歌詞で述べられている。

港から出て旅立ちに当り，観音堂に旅の安全の祈願をし，港までの途中，崇元寺の景観と美栄橋や中の橋あたりを叙述して，薩摩までの海路の様子を表現して，歌われている。

両手に扇をもち，体の構え，足の運び，手振りなど，若々しく，明るさにみちた男踊りである。黒紋付，茶の半帯，白足袋の装束で踊る。

(2)　踊りの内容

昔は，沖縄から外へ旅立つときは，船を利用した。「上り口説」の「上り」は，沖縄から日本本土へ行くということである。逆に，「下り」とは，本土から沖縄へ帰ることを意味する。

「上り口説」の踊りは，男踊りの一つですが，

任務を持って本土へ行く旅立つ人の心や気持ち，港での友人や家族との別れの様子や，船旅路での自然や景色の様子を述べている。「口説」は，「語る」という解釈ができる。

「上り口説」は，要するに，沖縄から本土までの旅海路をつづった内容である。

(3) 踊りの歌詞

1番　旅の出立　　観音堂　千手観音
tabinunjitachi kannundo shintikannun
伏し拝で　黄金酌取て　　立ち別る
fushiugadi kuganishakututi tachiwaru

2番　袖に振る露　　押し払ひ 大道松原
sudinifuruchiyu usiharai ufudomatsubara
歩み行く　行けば八幡　　崇元寺
ayumiyuku yukibahachiman suginji

3番　美栄地高橋　打渡　　袖よ連らねて
miijitakahashi uchiwatati sudiyuchiraniti
諸人の　　行くも帰るも　　中の橋
muruhitunu yukumokairumo nakanuhashi

4番　沖の側まで　　連れて別ゆる
uchinusubamadi uyakuchyode chiritiwakayuru
旅衣　　袖と袖との　　露涙
tabigurumu suditusudituni chiyunamida

5番　舟の　とむじな 疾く解くと 船子勇みて
funinu tumujina tukutukutu funakuisamiti
真帆引けば 風や真艫に　　午末
mafuhikiba kajiyamatumuni umafichiji

6番　復も巡り会ふ　　御縁とて 招く扇や
matanmiguriowu guintuti manikuojiya
三重城　　残波岬も　　後に見て
miigushiku zanpamisachin atunimiti

7番　伊平屋渡立つ波 押添へて 道の島々
ihyadutatsunami ushisuiti michinushimajima
見渡せば　七島渡中　　肴安く
miwatashiba shichitutunakan nadayashiku

8番　むゆる煙は立ちゆる硫黄ケ島　佐多の
muyuruchimuriwa yuogashima sadanu-
岬も
misachin
走り並で（えい）彼りに見ゆるは
hainaradi eyi arinimiyuruwa
御開門　富士に見粉ふ　桜島
ukaimun fujinimimagwo sakurajima

(4) 歌　意

1番　旅に出るときは，旅立つ前に首里にある観音堂の千手観音様に旅の安全を祈願し，杯をかわして別れをつげる。

2番　朝が早いので，袖にふる露を払い，大道の松原を歩んで行けば，崇元寺の当りまで着いた。

3番　美栄地の高橋を渡って諸人の行き来する道を通り中の橋へ着いた。

4番　港では親子兄弟が別れを惜しみつつ袖を涙でぬらす。

5番　船のとも綱をとけば船は海へすべりでて，船の帆をあげれば風が当たり船はすべるように海路を進む。

6番　縁があるならば，またも巡り会いましょうと，扇を招き振る。三重城（那覇の港）から船出して，ふりかえれば早，読谷村の残波岬が後に見えるほど航海が進んでいる。

7番　伊平屋沖の波立ちを越えれば島々が見渡せ，七島灘という荒波の海もすべるように渡って行ける。

8番　燃える煙（たちゆる）は，硫黄が島，佐多の岬に並んで見える。あれに見えるのは，富士に見間違うほどよく似た桜島である。（桜島は鹿児島県の港入口である。目的地に着いた事を意味する。）

(5) 音楽と舞踊の関係地方心得と留意点

～ 喜瀬慎仁による ～

（沖縄県立芸術大学音楽学部邦楽科助教授）

歌・三味線のうたい弾きの解説と留意点を示しながら，音楽が地方として踊りとどのように調和して作品を完成させるかについて書くこととしたい。

まず，

① 歌い方は，「上り口説」の場合，勇壮，活発で男性的な声で歌うこと。

② 「歌出し」の「歌詞」をはっきり入れることと発音を力強く歌うこと。

③ 踊り手が瞬間的に踊り動作を始めるので，テンポの早い曲「口説」などは一定の調子（速度）で演奏し歌うこと。いわゆる，ゆったりした「女踊り」と違う歌い方であることを心構えなくてはならない。

④ 腹の底から声を出し力強くうたうことが大切な要素である。

⑤ 口説のような曲想は，テンポが早くなる傾向にあるので，先述のように同一テンポで最初から最後まで弾き歌うことを心得とする。要するに，テンポは，次第に早くなる傾向性をもつのがリズミカルな曲の気をつけなくてはいけない“地方”の方法である。

⑥ 「口説」調の曲は，誰でも出来るものであるが，地方として「口説」を踊らせることはむずかしい面があり，要するに，地方としての上達（良し悪し）の程度や技量，年期などは，「口説調」の曲をやらせると明確であるといわれるので，やさしいようでむずかしさがある。

⑦ 特に８番の最後の踊りと歌の，“はいならでぃ「エイッ」”というところは，踊り手の足拍子の動作と歌・三味線・太鼓と呼吸と問合いを調和させ，踊りをしめくくっていく大切な場面である。

⑧ 「口説」ものは非常に，踊り手の（出羽）“立ち方”の立つ動作とのタイミングに神経を使う。したがって，地方は，踊り手の“足を見て”弾いているということが出来る。表情や手振りよりも「足の運び」と調子を合わせるのである。

以上が「上り口説」のような「口説」の曲の留意点の大きな心得である。

「上り口説」は，首里城を出発し，観音堂で旅の安全を祈願し，那覇港を経て薩摩に行くまでの長い旅程を巧みに表現した踊りである。

歌い手の立場としてこの曲は，軽快なテンポでもあるので，きびきびと二才踊りらしく男性的な声で，勇ましく歌うことである。そして，さらに大切なことは同じテンポで弾くことである。とかく興にのると次第に速くなり踊りを殺してしまうことになるので，充分注意しなければならない。さらに付け加えるならば歌出しの歌詞をはっきり発音させて歌うこと。なぜなら踊り手は最初の歌詞を聞いて確認し，瞬時にその踊りの動作を始めるからである。とかく，やさしいようで難かしいのが「口説」の地謡である。

ところで，以前は一節ごとに口説ばやしと称して踊り手が文言を唱える場面があったが，最近ではそれを省略した踊りがほとんどで，寂しいような感じがする。

(6) 上り口説ばやし（参考192頁「上り口説ばやし①」）　（琉球古典音楽安冨祖流工工四より）

上り口説　所作安冨祖子時間　凡　五十五拍

旅の出立親音堂千手観音　伏拝で寄金勧取て立別る
そてくゝ　ぢゝと語例吉　今日のかゝる日　船頭方から　風や吉方
明日の出帆　だに今朝下り　子供の上がれば　わすだ三代だり　親子別れ
の　主の座　に載せ　あゝくゝ　殺母に行かれば　又々　寄金の
御勧　わだくあーそうち　旦那　初め　千手観音　御願ぬーそうち
那覇に　上り　ヤヂヤ。

袖に降る露　押押し大道松原　歩み行く　行けば人幡　高元寺
あれくゝ　お伊の面々　泣ぶだらや　目に照り行く　大道松原　見
通れば　人幡　高元寺　皆　手を合せて　祈りは　銘言　拝　御願
ヤヂヤ。

美栄地高橋　打渡て　袖をつらねて　諸人の行き帰る　中の橋
美栄地高橋渡る　姿に　大和の御船　後　先に　真帆引通れば
行く　帰る　綱の上から　親子兄弟　こぞに　待ち　焦ーヤヂヤ

沖の側　迄親子兄弟　連れて別る　旅衣　袖と袖とに　露涙
袖と袖とに　泣ぶめ　親子別れ　咽　こまて　物言　なめ　何れ
語例吉　若衆　ちゃ　そて　位置に　御水　つみ上げ　御船に　乗り
つゝ　ヤヂヤ

船の綱　とくゝと　船子　呼　て　真帆引　れば　風や　まとめに　午未
船頭　作事　舟子　呼　くゝ　だのみ　ぞらん　錨　こぎ　帆　引
き上げ　手綱　ぬきて　それくゝ　出帆　旦那　はじめ　わすだ三代だり
金の上　ヤヂヤ

赤き　巡り　達　御　縁　て　招く　扇子や　三重　残波岬　後に　見て
そてくゝ　語例吉　御　後　会ーそうち　招く　扇子　遥　先に　大和と
洋　綱　綱の上から　真帆　引通れば　一目　見る　残波岬　後に　見る
ヤヂヤ

伊平屋渡立て　波押　渡て　路の　島々　見　渡れば　七島　渡中　難　安く
旦那　初め　わすだ三代だり　外　離れ　ぬ　船頭　作事　来て
あれ　徳　あ　ヤヂヤ　子　論　名に　聞　立て　波　静　なる　代に　七島　渡
中に　三日の　御　礼　ヤヂヤ

あれて　煙は　薩摩　島　佐多の　岬に　走　船　て　人
あれに　見　る　煙は　薩摩　佐多　岬　走　船　て　人　引　あり　風　吉　方　は
佐多　岬　手　て　見　れ　あれに　見　る　は　御　開　門　富士　に　見　紛
ふ　桜　島　桜　島　ヤヂヤ

7. 「上り口説」の踊り方・構成と留意点

（写真番号はタイツスタイル踊り図）

〔出羽〕…①両手に扇を持ち，下手から舞台中央へ歩み出（写１～６）

②舞台中央で，右まわり，正面向き男立ち（写７～９）

１番…①始動（両膝曲げ），右向き右足出，両手右横あげ（写10～12）・正面向き，両手前（左手上，右手下），左足出（写13～15）

②右足から３歩前進（写16～17），３歩目に両膝曲げ，両手下ろし構え（扇立て）（写18），左足出，基本立ち（写19～20）

③切り返し右足あげ右向き（右手前，左手横）（写21～24）

④右まわり（写25～28）

⑤正面向き，両足揃え，両膝曲げ，両手下開き，扇左右立て（要下向き）（写29）

⑥右足後ろ引き，両手あげ開き，扇逆立て（写30～32）

⑦両手扇基本持ち両膝置き，左膝立て座る（写33～35）

⑧両手前あげ，おじぎする（写36～37）

⑨左向き座り切り返し，右膝立て右手前（写38～43）

⑩立ち上がり右まわ（写44～48）

⑪右足から３歩後方へ進み（写49～52）

⑫３歩目の右足で右まわり（写53～55），基本立ち（写56…58）

２番…①始動，両膝曲げ（写59），右向き両袖下（扇要上立て）（写60～62）

②正面向きと同時に両扇で袖すくい上げ（写63～68）

③右足から３歩前進（写69），３歩目に両膝曲げ扇体前立て，左足横出，基本立ち（両手前）（写70～71）

④右まわり（写72～74），後ろへ右足から３歩進み（写75），３歩目の右足で右まわり（写76～78）

⑤正面向きと同時に右手右横出，右足上げ右手前あげ（写79～81）

⑥右足出右手出，左足あげ（写82～84），左足出左手出，右足あげ（写85～87），右足出右手出，左足あげ（歩く動作）を３回（写88～90）

⑦右まわり（写91～92）右足から後ろへ３歩進み（写93～96）

⑧右まわり，基本立ち（写97～102）

３番…①右向き右足右出，右手開き扇下ろし（写103～104）

②正面向き，左足あげ，右手あげ（写105～106）

③左足出，右足に左足かかとつけ（写107～108）

④左足から３歩前進，３歩目の左足かかとに右足つける（写109～112）

⑤左向き左足交差，右手扇要下立て，左手扇要上立て両膝まげ（写113～114）

⑥両手あげ，左足横あげ，左足下ろし，右手袖すくい，左手要前向き扇立て，右袖見る（写115～118）

⑦左向きのまま，両足そろえ膝曲げ，両手扇要上開き下ろし（写118）

⑧両手あげ，右足あげ，正面向き，両手下ろし扇要下立て，扇からだの前後へ置く（写119～123）

⑨右まわり（写124～126）

⑩後向き右足かかとから４歩前進（写127～130）

⑪右まわり扇体前下ろし構え，正面向き，基本立ち（写131～137）

４番…①始動（写138），右向き，右足出，両手開き扇持ち（写139），正面向き右手左手と胸前交差胸抱き（写140～141）

②右足から３歩前進，３歩目に膝曲げ，左足横出，基本立ち（写142～146）

③右まわり（写147～150），両足揃え両手左右水平開き（伏せ手）（写151）

④扇基本持ち，右足から後方へ３歩前進（写152～156）

⑤右まわり（写157～159），両足揃え，両手要下立て開き構え（写160）

⑥両手あげ，右足あげ，両扇頭上左右開

き，右足下ろし（写161～163）
⑦両足揃え両手左右開き要下立て（写164），右手上左手右袖すくい（写165～166）
⑧両手開き左右下ろし要下，左手上，右手左袖すくい，左足前出（写167～172）
・右まわり（写176～178），基本立ち（写173～181）

5番…①左手基本持ち，右手開き扇持ち変え（写182），左足出，右手左扇上伏せ置き，右足交差右手右斜めあげ，扇受け手，右足右出（写183～186）
②右手基本持ち，左手右手上伏せ置き（写187～188），左足交差のまま，左手受け手，左斜めあげ（写189～190）
③左足左横出左向き，両手（扇親骨持ち），左下下ろし，両膝曲げ（右手伏せ扇，両手受け扇）（写191～192）
④両手あげ，右足前出，両手右下下ろし，両手上あげ，左足出（写193）
⑤右足出，膝曲げ，両手下受け開き（写194～197），左足横出，両手上あげ（帆かけ手）左見る（写198～199）
⑥両手下ろし右まわり（写200～202）
⑦右足から後ろへ3歩進み（写203～206）
⑧右まわり（写207～209），基本立ち（写210～212）

6番…①両膝曲げ（写213）
②右手基本持ち，左手親骨打ち上げ下ろし2回（写214～217），2回目に左手上あげ右足あげ（写218）
③左手右足下ろし基本立ち（写219～220）
④基本立ちのまま，両手右上あげ下ろし（写221～223），左上あげ下ろし（招き手）（写224～225）
⑤右足出膝曲げ，両手下ろし扇立て構え，左足横基本立ち，両手扇基本持ち（写226～228）
⑥右まわり，後向き（写229～231）
⑦後ろへ3歩進み（写232～233）
⑧3歩目の右足出膝曲げ両手扇立て（写234）
⑨左足交差しながら左まわり正面向き，両手右上げ正面を見る（ふりかえる）（写235～237）
⑩右まわり基本立ち（写238～244）

7番…①始動（写245），両手開き扇持ち左右下ろし，両膝曲げ（写246～247）
②右横向き右足出，両手右上あげ（写248）
③両膝曲げ，両手右上から前方へ押し出す（写249～250）
④両手回し右上から前出しを2回（波打ち寄せる）（写251～255）
⑤左足引き両足揃え（両手前上げのまま）（写256）
⑥右足前出，左足右足揃え（写257～259）
⑦両膝曲げ，両手あげ（写260）
⑧右斜かざし扇右足出膝曲げ，正面向き（右手上左手基本持ちのまま）（写261～263）
⑨左足から大まわりして正面向き，基本立ち（写264～274）

8番…①両手頭上から体前へまわし下ろし，扇要下立て，左足を床に打ち下ろし，右足上げ，両手左右開き（写275～279）
②右手上，水平扇，左手下，要下立て，右足出，右足かかとに左足揃え（写280～281）
③右足をあげると同時に，両手左右開き，左足上げ（写282～286）
④左手上（水平扇），右手要下立て，左足かかとに右足そえ（写287～288）
⑤右横向き，右足出，両手上要上あげ（写289～291）
⑥両膝曲げ，扇両肩へ下ろし掛けのまま正面向き，左足引き（写292～294）
⑦右足から3歩前進（写295～297）
⑧3歩目に両手要下前に押し出し（写298）
⑨右足引き両足揃え，両手下ろし（写299～303）
⑩両手左右から頭上にあげ体前に下ろし要下立て膝曲げ（写303）
⑪体前に両手扇立てたまま右左足拍子（エイ）（写303～305）
⑫両足揃え，左手基本持ち（写306）右手

開き扇持ち，右手あげ，右足上げ下ろし伏せる（みる）（写307～309）

⑬右手扇持ち変え，左手あげ，左足あげ下ろし伏せる（みる）（写310～314）右足引き両足揃え，右手受開き（写315）

⑭左足でのまま左手受開き（写316）

⑮左手下ろし，左足横出，左向き（写317），切り返し（写318～319）

⑯右まわり（写320～322）

⑰右足から4歩後ろへ進む（写323～325）

⑱4歩目に右まわり（写326～329）　基本立ち（写330～332）

〔入羽〕…①両手扇基本持ち，右足出（写333），左足横出基本立ち（写334）

②右向き，右足引き，両膝曲げ（写335～339），左足から退場（写340～345）

8.「上り口説」の踊りの留意点

解説のように，沖縄から鹿児島までの航海による道行の情景を歌い，その様子や感じを表現するのがこの踊りである。

両手に扇をもつことで（扇舞・Ōjime）の男踊りということになり，「かぎやで風」の右手に扇をもつ踊りとの技法の違いがある。

歌意解説で分るように，「旅に出る前の安全祈願」「港まで歩きゆく様子」「港での家族との別れ」「出航して，船がすすんでいく島々の情景」「桜島がみえることで，鹿児島へ着いたこと」を表現するのである。

① 両手の扇使いは，もちろん両手使いと小道具扱いの留意点を十分心得なくてはならない。持ち方，上げ，下げ，ポーズなど，技法と内容を十分理解しながら踊ることが大切である。

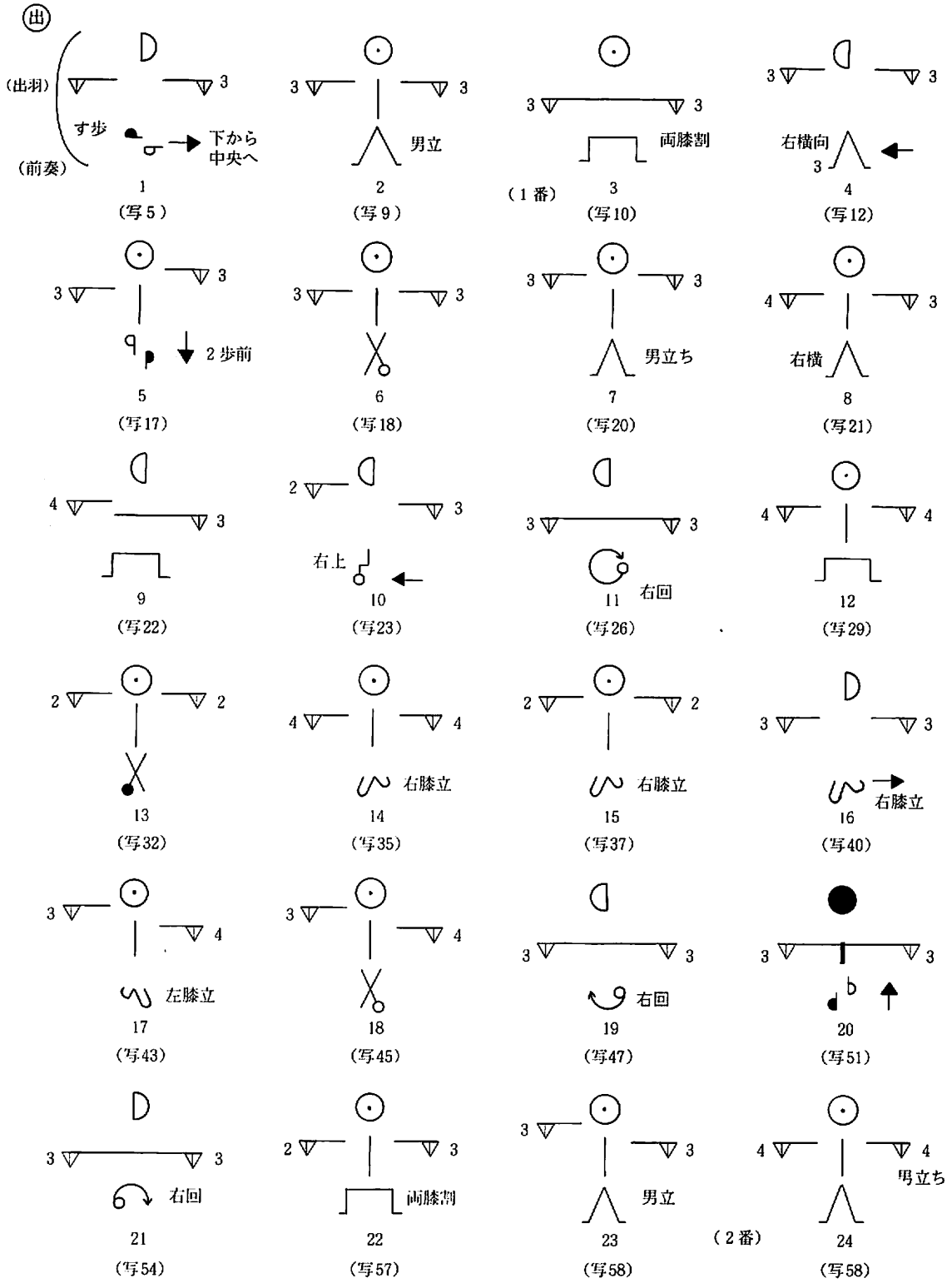
② “上る”という，責務を果たすために勇壮に意気ごみをよりはつらつと踊りに表現しなくてはならないでしょう。

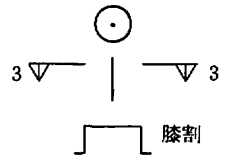
若々しさ，りりしさ，希望にもえて旅立つ勇壮さが，見るものの明るく，たのもしい踊りにすることである。

③ 1番の観音堂への安全祈願のおじぎの表現，両膝つきの“切り返し”。2番の朝早いので両袖を扇ですくい露がふる形，“歩みゆく”“歩く動作”のはつらつさ。3番の橋をトントンと渡る技法，4番の家族との別離の様子を“袖と袖に涙”という袖すくい。5番の舟のとも綱をといて，舟の帆に風が当り舟がでる様子，“帆かけ手”両手を上げる。6番の“又もめぐり会いましょう”と心をとめる，はや残波岬も後にみえる程に舟が進んでいる，ふり返る様子。7番の七島灘の荒波も静かになり“波の表現を両手扇で後から前へ押す”波の打ちよせる様子島々を見渡して回る。8番の鹿児島の桜島の煙の様子，富士山に似ているなあと眺める様子，桜島がみえることは鹿児島についたという，目的地へついたという心意気を「エイッ」で足拍子で表現する。

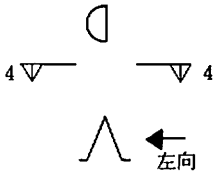
これらの内容と技法を明るく，はつらつとした気持ちで踊ることが大切な留意点である。

9. 上り口説譜　～譜語と記号～〔図－4〕

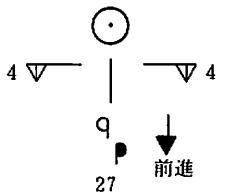




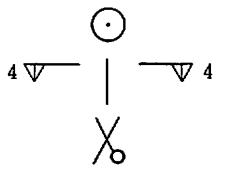
25
（写59）



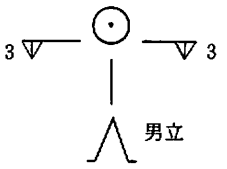
26
（写62）



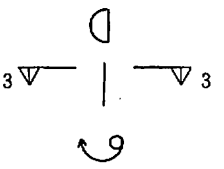
27
（写67）



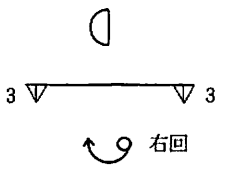
28
（写69）



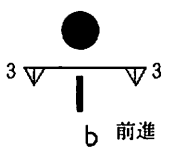
29
（写71）



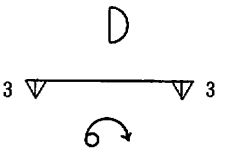
30
（写72）



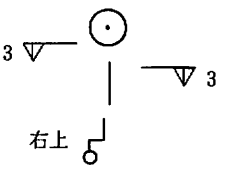
31
（写73）



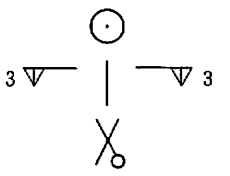
32
（写75）



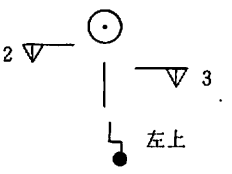
33
（写77）



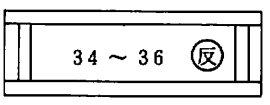
34
（写81）



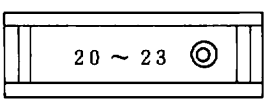
35
（写82）



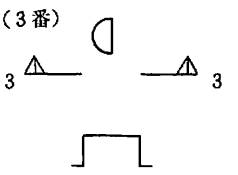
36
（写83）



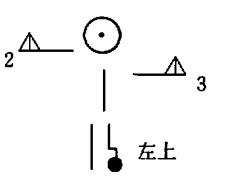
37
（写81，82，83）



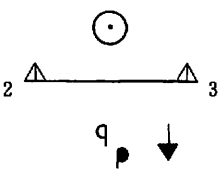
38
（写51，54，57，58）



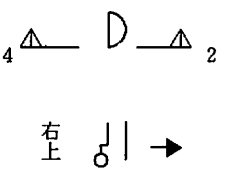
39
（写 103）



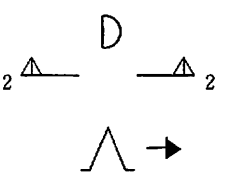
40
（写 106）



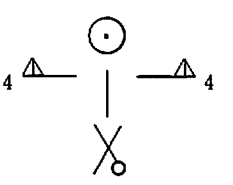
41
（写 109）



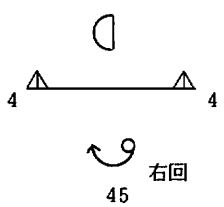
42
（写 117）



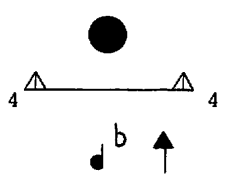
43
（写 121）



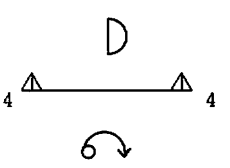
44
（写 123）



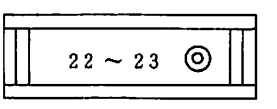
45
（写 124）



46
（写 128）



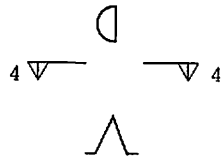
47
（写 132）



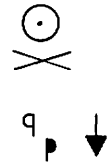
48
（写57，58）

（4番）

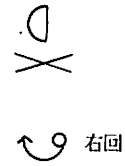
49
（写 138）



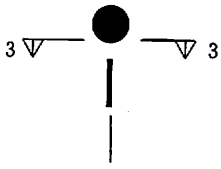
50
（写 139）



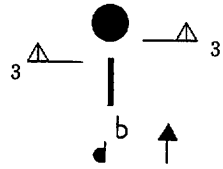
51
（写 143）



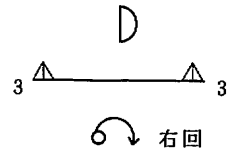
52
（写 147）



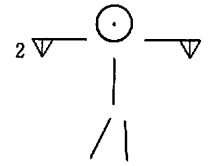
53
（写 151）



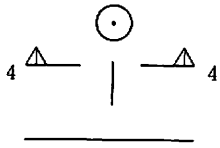
54
（写 153）



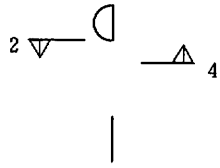
55
（写 158）



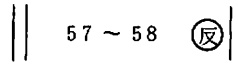
56
（写 163）



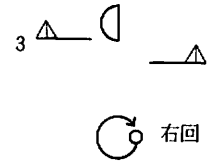
57
（写 164）



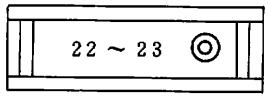
58
（写 166）



59
（写 164, 166）

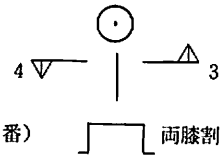


60
（写 174）

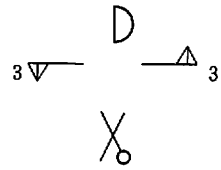


61
（写57, 58）

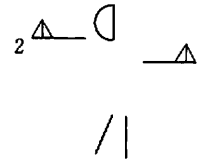
（5番）



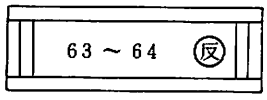
62
（写 182）



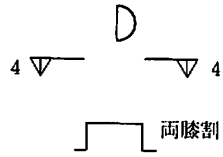
63
（写 184）



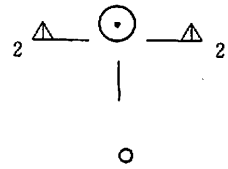
64
（写 186）



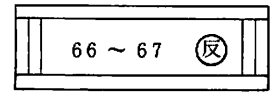
65
（写 184, 186）



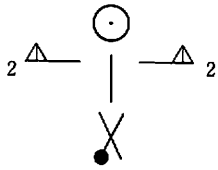
66
（写 192）



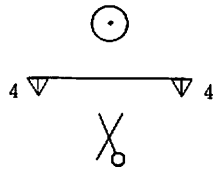
67
（写 193）



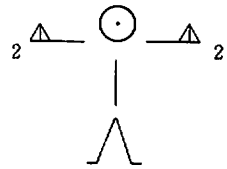
68
（写 192, 193）



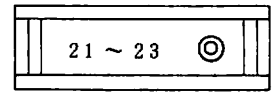
69
（写 195）



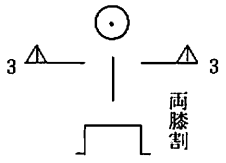
70
（写 197）



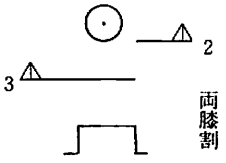
71
（写 199）



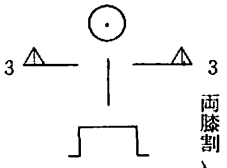
72
（写54, 57, 58）



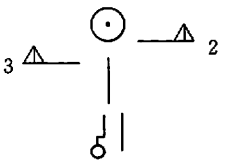
（6番）　73
（写213）



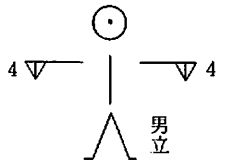
74
（写215）



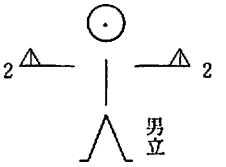
75
（写216）



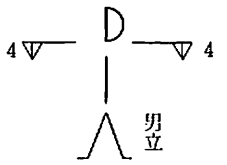
76
（写218）



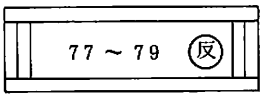
77
（写221）



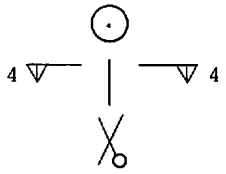
78
（写222）



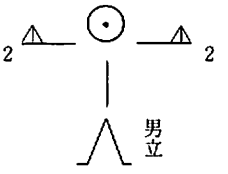
79
（写223）



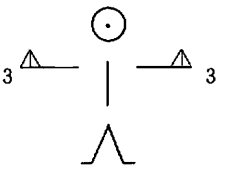
80
（写221, 222, 223）



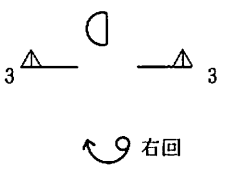
81
（写226）



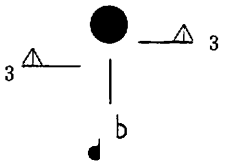
82
（写227）



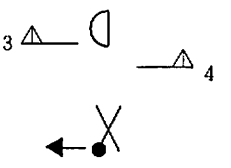
83
（写228）



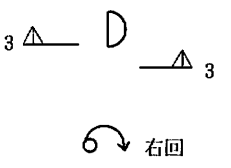
84
（写229）



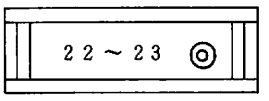
85
（写232）



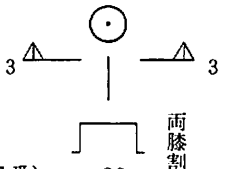
86
（写237）



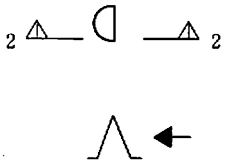
87
（写240）



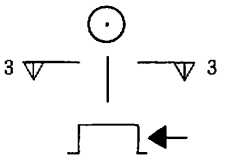
88
（写57, 58）



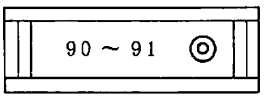
（7番）　89
（写245）



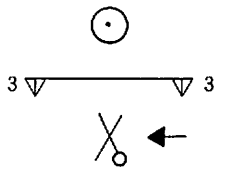
90
（写248）



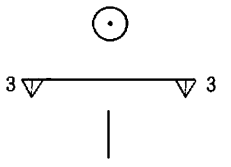
91
（写250）



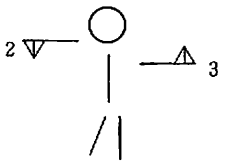
92
（写248, 250）



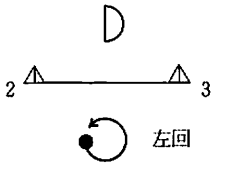
93
（写257）



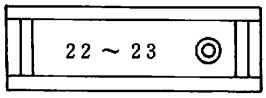
94
（写258）



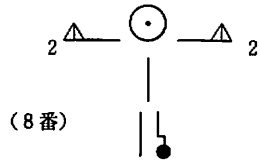
95
（写262）



96
（写266）

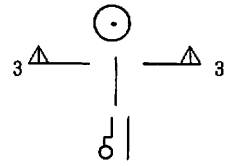


97
(写57, 58)

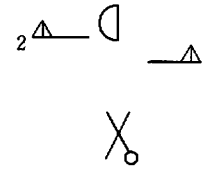


(8番)

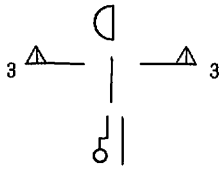
98
(写 277)



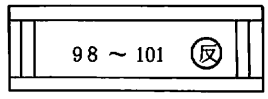
99
(写 279)



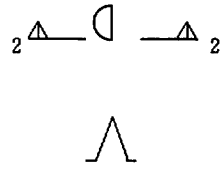
100
(写 281)



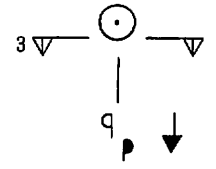
101
(写 284)



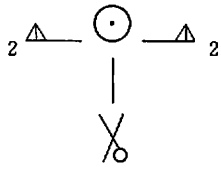
102
(写 277, 279, 281, 284)



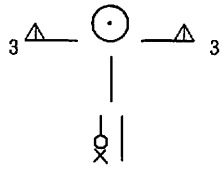
103
(写 291)



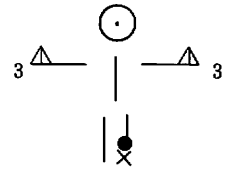
104
(写 294)



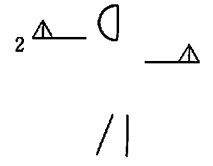
105
(写 298)



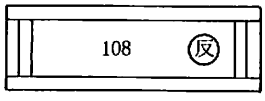
106
(写 303)



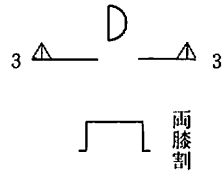
107
(写 305)



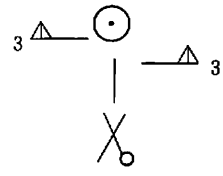
108
(写 308)



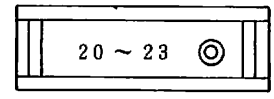
109
(写 308)



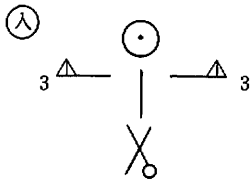
110
(写 316)



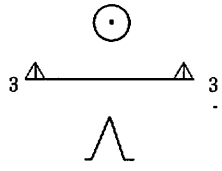
111
(写 319)



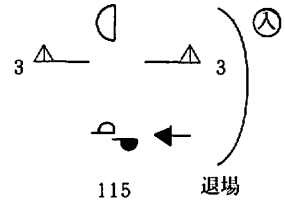
112
(写51, 54, 57, 58)



113
(写 333)



114
(写 334)



115
(写 339 ～ 343)

"NUBUI KUDUCHI"

10 OUTLINE OF "NUBUI KUDUCHI"

The song "Nubui Kuduchi" was composed by Yakabi Chooki 250 years ago and the dance, which is a male dance, was one of the most important dances in the Ryukyuan era. This dance, whose level is the same as that of "Menuhama," is usually performe by young men and it depicts a apirit of liveliness and youthfulness. The dence was very popular when Ryukyu was once a kingdom ruled under a king, and it tells the story of the travel, from Ryukyu to Kagoshima, of the king's messengers.

CONTENTS OF "NUBUI KUDUCHI"

Long time ago, when the Chinese used ships and other boats to trade with Ryukyu, this dance was very popular. "Nubui," in the dance, means an up travel from Ryukyu to Japan and it shows the messenger's feeling of excitement. "Kuduchi," on the other hand, means the story of the messenger's travel from his pre-departure : the setting off at the port, the many small islands he sees, the breath taking sceneries, and other things on his way to Kagoshima.

11 LYRICS OF THE SONG

1) tabinujitachi kannundo shintikannun
   fushiugadi kuganishakututi tachiwaru

2) sudinifuruchiyu ushiharai ufudomatsubaru
   ayumiyuki yukibahachiman suginji

3) miijitakashi uchiwatati sudiyuchiraniti
   muruhitunu yukumokairumo nakanuhashi

4) uchinusubamadi uyakuchode chiritiwakayuru
   tabigurumu suditu sudituni chiyunamida

5) funinu tumujina tukutukutu funaku isamiti
   mafuhikiba kajiyamatumuni nmafichiji

6) matanmiguriowu guintuti manikuojiya
miigushiku zampamisachin atunimiti

7) iheyatatsunami ushisuiti michinushimajima
miwatashiba shichitutunakan nadayashiku

8) muyuchimuriwa yuogashima sadanumisachin
hainaridi eyi arinimiyuruwa
ukaimun fujinimimagwo sakurajima

12 MEANING OF THE SONG

1) The messenger, before making his trip to Japan, goes first to the Shuri Temple and prays for safety and good health during the journey. He drinks "sake" from "sakazuki" as a sign of offering of himself.

2) Early morning at dawn, when the grasses are still wet with dew, he goes to another temple to pray and he also tries "to get rid of the dew on the sleeves of his kimono." From there, he starts his way to the port.

3) On his way to the port, he meets many people passing by, and suddenly he finds himself standing in the middle of a high bridge.

4) At the port, his parents and the other family members are very reluctant to see him leave but then he has to go for the mission. So the family cannot help but let their tears off.

5) When the ship is ready to leave and the sails and reaised, the wind slowly pushes the ship off the harbor and so the messenger's journey begins.

6) So the goes on and people hope that there must be a chance thet they may see him again. People wave folding fans to him. When the messenger looks back , he can no longer see the port but instead he sees "Zampa" promontory, and that reminds him that he is already a distance away from the port.

7) As the journey goes on, the ship experiences, at "Iheya" island's offshore, the bombarding of the waves caused by conflicting curents. Through the waves he can see many small

islands and he also passes through peaceful parts of the ocean which reminds him that not all journeys go through the hard way.

8) After some time of the travel, he sees "Yooga" island's smoke from its mountain. Not far from the island is "Sata" promontory, where he sees a mountain which looks like Mt. Fuji, and from that observation the messenger thinks that they are already at "Sakura" island, kagosima. It gives him a sense of relief because he thinks they are near their destination.

13 CHOREOGRAPHY OF "NUBUI KUDUCHI"

"Njifa"(entrance) - a)hold fans stretching the arms infront of the body, and walk towards the center(fig.1-6),b)turn-right and take "Mele Standing Form"(Fig.7-9).

((1)) 1)hold fans at the same level while bending the knees slightly; face right while raising the fans and stretching the legs(Fig.10-12), slightly bend the knees, face left, and hold the left fan slightly higher than the right one(Fig.13-15), 2)step to the right, and then to the left maintaining the same fan-hold(Fig.16-17), lower the fans vertically while crossing the legs(Fig.18), take "Male Standing Form" while lowering the fans vertically(fig.19-20), 3)bend the knees a little while raising the right fan horizontally; face right while raising the right leg up together with the right fan, and then lower both(Fig.21-24), 4)small-turn to the right(Fig.25-28), 5)hold the fans vertically infront of the body slightly bending the knees(Fig.29), 6)step slightly forward with the left foot, and then raise the fans up, turn them down and then bring each of them to each side(Fig.30-32), 7)on the same foot position, kneel down while lowering the fans also(Fig.33-35), 8)on the kneeling position, raise the fans to the shoulder level and hold them vertically while slightly looking down(Fig.36-37), 9)face left maintaining the kneeling position. Bring the right fan to the horizontal position while raising the right knee to stand up (Fig.38-43), 10)stand up placing the right foot before the left, and keep the right fan in the same holding. Do the small-turn to the right facing the back (Fig.44-48), 11)walk 3 steps starting with the right foot(Fig.49-52), 12)small-turn to the right and take the "Male Standing Form"(Fig.53-58).

((2)) 1)slightly bend the knees(Fig.59), 2)face right, and then hold the fans on the "Inward Position" at the sides while facing left(Fig.60-65), 3)walk 3 steps starting with the left foot. Cross the feet raising the fans up and then stand straight(fig.66-71), 4)small-turn to the right(fig.72-78), 5)lift up the bended right foot while moving the right fan horizontally

to the shoulder level(Fig.79-81), 6)lift the foot bended left next maintaining the right fan position, and then loft the right foot again. Changing the position of each fan, repeat the same actions starting with the left foot this time (Fig.82-90), 7)small-right-turn facing the back, then walk 3 steps starting with the right foot(Fig.91-96), 8)small-right-turn, then take the "Male Standing Form"(Fig.97-102).

((3)) 1)hold the right fan with the open-fan hold, and then face right (Fig.103-104. 2)raise the right fan and lift the left foot while facing left(Fig.105-106), 3)slide the right foot forward(Fig.107-108), 4)walk 3 steps starting with the right root, then stamp with the foot(Fig.109-112), 5)face left lowering the fans vertically(Fig.113-114), 6)raise the fans up while raising the left foot to the side. Hold the right fan horizontally and the left one vertically(Fig.115-118), 7)bring the fans to the sides (Fig.119-120), 8)lower the fans at the sides while stamping with the right foot, then face right. Bring the right fan infront of the body and the other to the back(Fig.121-123), 9)amall-right-turn facing the back. Maintain the same fan positions(Fig.124-126), 10)walk 4 steps(Fig.127-130), 11)small-right-turn, and then bring both fans infront of the body taking the "Male Standing Form"(Fig.131-137).

((4)) 1)hold the fans with the open-hold form, then face right. Cross the arms until the fans touch the shoulders(Fig.138-141), 2)walk 3 steps, then cross the feet. Take the "Male Standing Form" next(Fig.142-146), 3)face back opening the arms (Fig.147-151), 4)walk 3 steps starting with the right foot. Bring the fans infront at the same time (Fig.152-156), 5)small-turn holding the fans vertically infront(Fig.157-160), 6)slightly lift the right foot aside moving the fans up and down (Fig.161-164), 7)set both feet together. Raise the right fan up and move the left fan to the right side. Swing both fans downwards (Fig.165-166), 8)bring the fans to the left side this time, and perform the same movement(Fig.167-172), 9)full small-turn, then take the "Male Standing Form"(Fig.173-181).

((5)) 1)hold the right fan with the open-fan hold, and then bring it to the left side while crossing the right foot over the left. Bring back the fan to the right side moving back the right foot together(Fig.182-186), 2)step with the left foot while doing the same movement with the left fan(Fig.187-190), 3)rib-hold the fans and swing them down while facing left(Fig.191-192), 4)face front with the same fan hold, and then swing the fans up, then to the right, and up again(Fig.193-195), 5)hold the fans vertically with the open-fan hold, then move them up and down, up again, and then front-up(Fig.196-199), 6)small right-turn facing the back(Fig.200-202), 7)walk 4 steps starting with the right foot(Fig.203-206), 8)small right-turn and take the "Male Standing Form"(Fig.207-212).

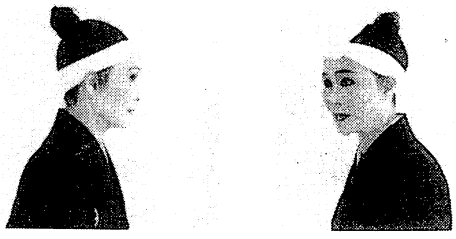
((6)) 1)bend the knees(Fig.213), 2)hold the left fan with the rib-hold. Raise it up, and then lower it vertically infront. Raise the fan again while lifting the right foot(Fig.214-218),3)lower the fan and the foot, and stand(Fig.219-220), 4)hold both fans with the rib-hold. Swing them to the right, then up; then to the left, up and down(Fig.221-225), 5)take the ordinary-hold and the "Male Standing Form"(Fig.226-228), 6)face back(Fig.229-231), 7)walk 2 steps starting with the right foot(Fig.232-233), 8)cross the legs while lowering the fans(Fig.234), 9)put the left foot infront of the right. Twisting the body towards the left, raise the fans (Fig.235-237), 10)small-right-turn and take the "Male Standing Form"(Fig.239-244).

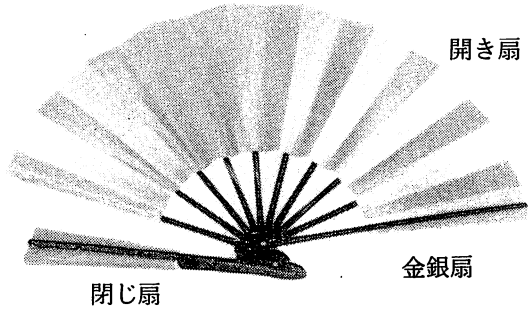
((7)) 1)hold the fans with the open-fan hold, and invert them(Fig.245-247), 2)face right while opening the arms(Fig.248), 3) lower the arms infront, then move them to the left side while facing left(Fig.249-250), 4)bring the arms up, then to the left side again facing left(Fig.251-255), 5)stand with the same fan-hold (Fig.256), 6)bend the knees and close the feet(Fig.257-258), 7)stand and raise the right fan up. Stretch the right leg to the side and bend it a little(Fig.261-264), 9)large-turn to the left and then take the "Male Standing Form"(Fig.265-275).

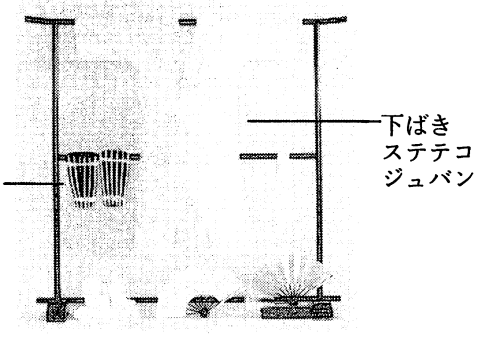
((8)) 1)hold the fans vertically with the rib-hold and stamp with both feet(Fig.276-280), 2)step forward with the right foot a little, and raise the right fan horizontally up and the left one vertically front(Fig.281-282), 3)lower the right fan, then stamp with the right foot first and the left next(Fig.283-287), 4)raise the left fan horizontally up and the right one vertically front(Fig.288-290), 5)hold the fans vertically with the rib-hold infront while facing right, and bring them down(Fig.291-293), 6)place the fans on the shoulders while facing left(Fig.294-296), 7)walk 3 steps starting with the right foot(Fig.297-299), 8)raise the fans horizontally(Fig.300), 9)lower the fans vertically(Fig.301), 10)move the fans up(Fig.302-304), 11)lower the fans infront and stamp with both feet(Fig.306-308), 12)hold the right fan with the open-fan hold, and stretch the right leg to the side while inverting the fan(Fig.309-311), 13)repeat the same action in the other way (Fig.312-315), 14)face left(Fig.316-317), 15)raise the right fan vertically up while facing right(Fig.318-320), 16)small-right-turn facing back(Fig.321-324), 17)walk 4 steps starting with the right foot(Fig.325-328), 18)small-right-turn and take the "Male Standing Form"(Fig.329-334).

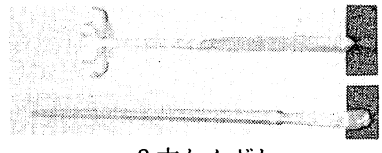
"Inifa"(exit) - 1)cross the legs and take the "Male Standing Form"(Fig.335-336), 2)face right, then step back to the left and walk towards the same place of the entrance. Start with the right foot(Fig.337-345).

14. 上り口説　装束・扮装

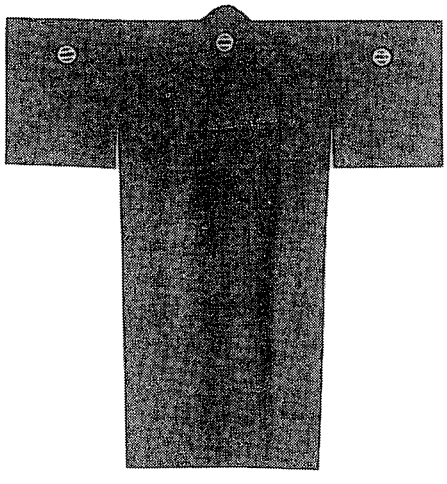








2本かんざし

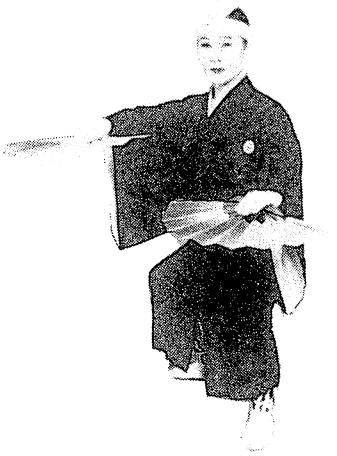


紋付黒衣裳

茶色系半帯

15. 上り口説　技法と型

（二本扇技法）



16. 上り口説譜 (1) 黒紋付扮装

上り口説
(出羽)

(前奏) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

(1節) 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36

37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49

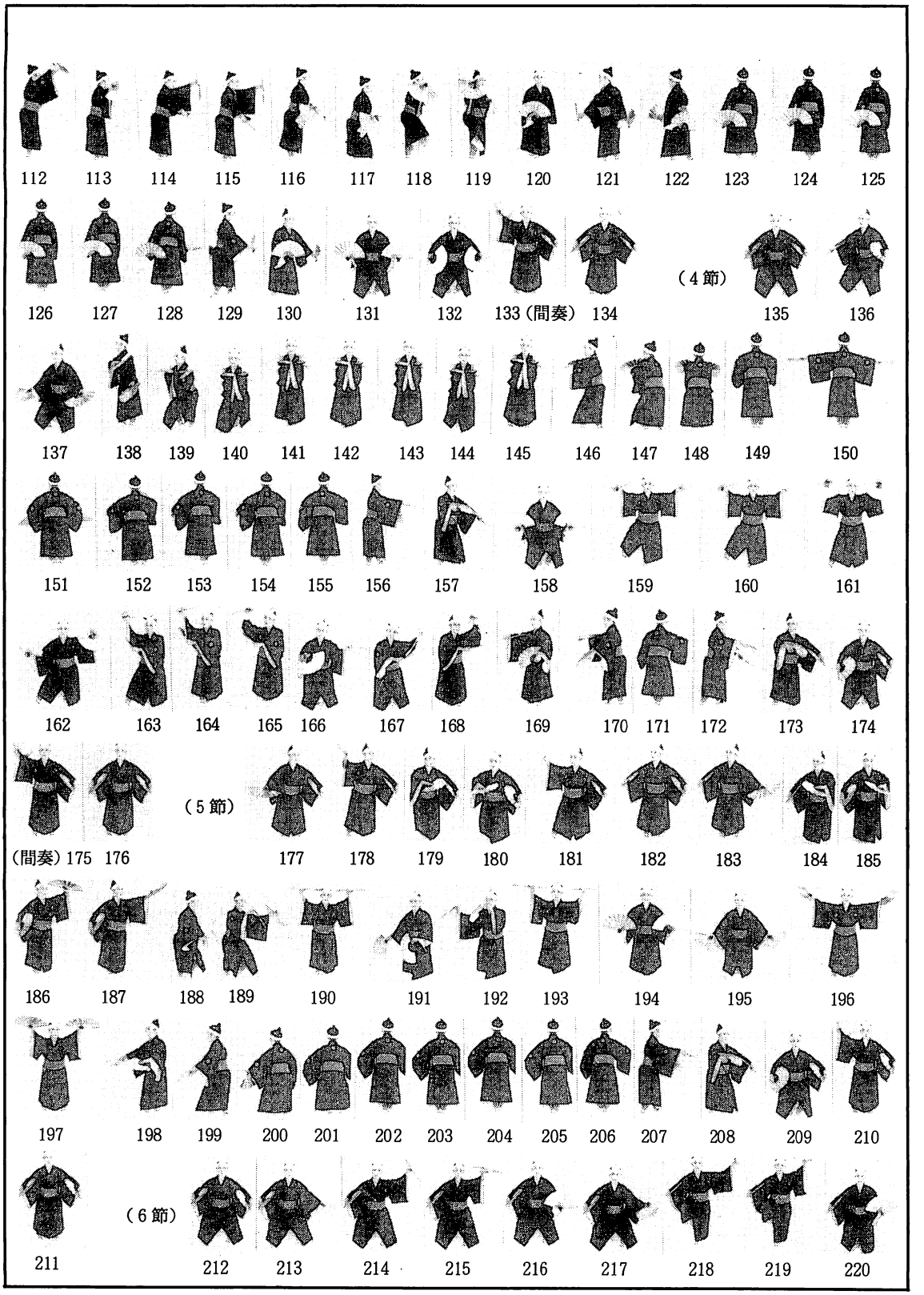
50 51 52 53 54 55 (間奏) 56 (2節) 57 58 59 60 61

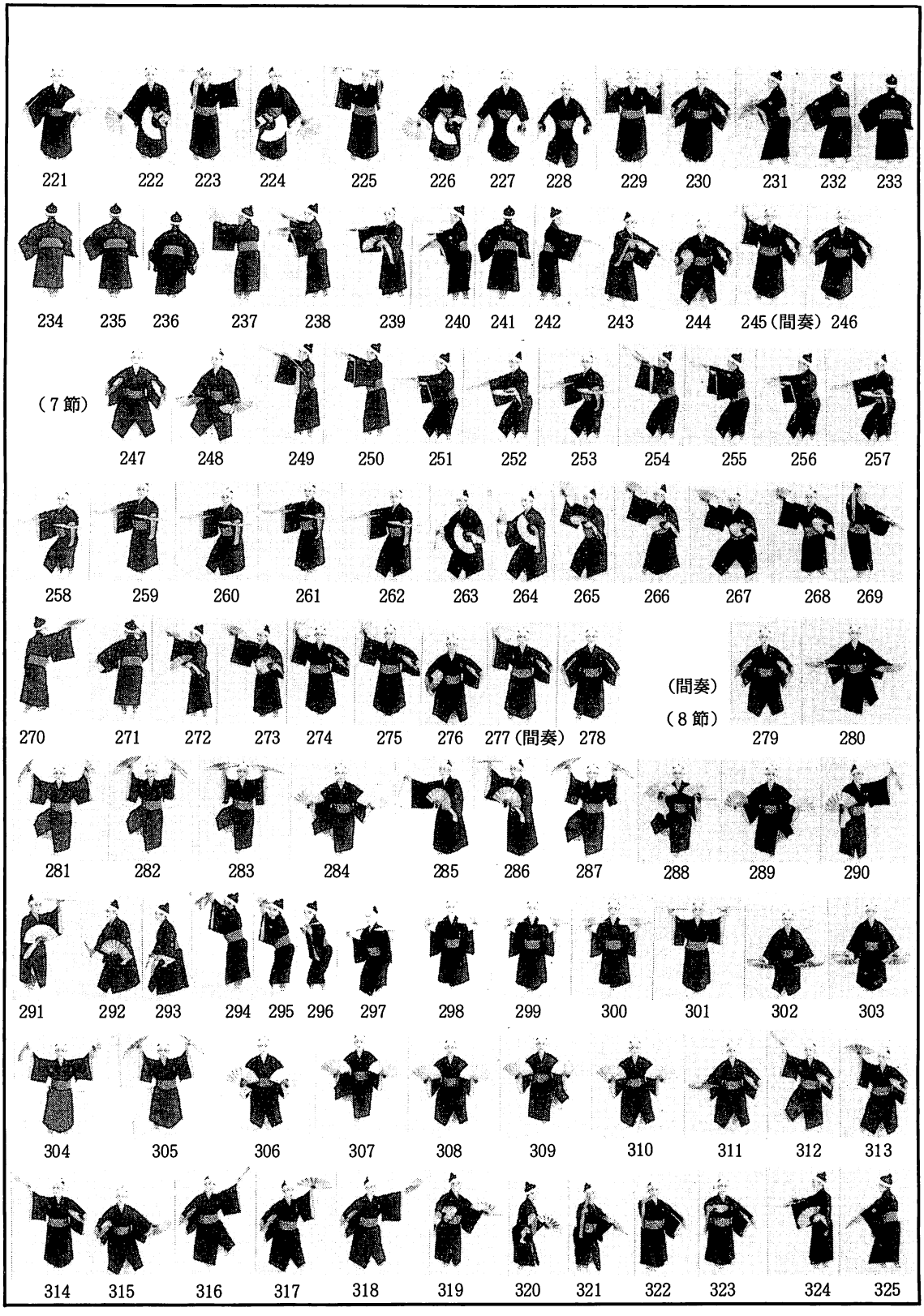
62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74

75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88

89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 (間奏) 99 (3節) 100

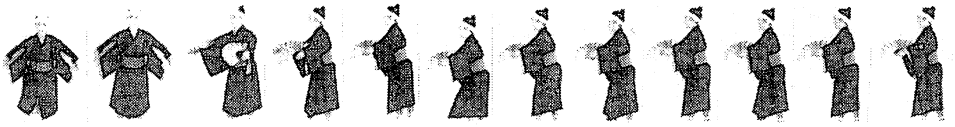
101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111


112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125
126 127 128 129 130 131 132 133（間奏） 134
（4節）
135 136
137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150
151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161
162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174
（間奏）175 176
（5節）
177 178 179 180 181 182 183 184 185
186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196
197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210
211
（6節）
212 213 214 215 216 217 218 219 220


221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233
234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 (間奏) 246
(7節)
247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257
258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269
270 271 272 273 274 275 276 277 (間奏) 278
(間奏)
(8節)
279 280
281 282 283 284 285 286 287 288 289 290
291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303
304 305 306 307 308 309 310 311 312 313
314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325

326　327　328　329　330　331　332　333　334　335　336　337

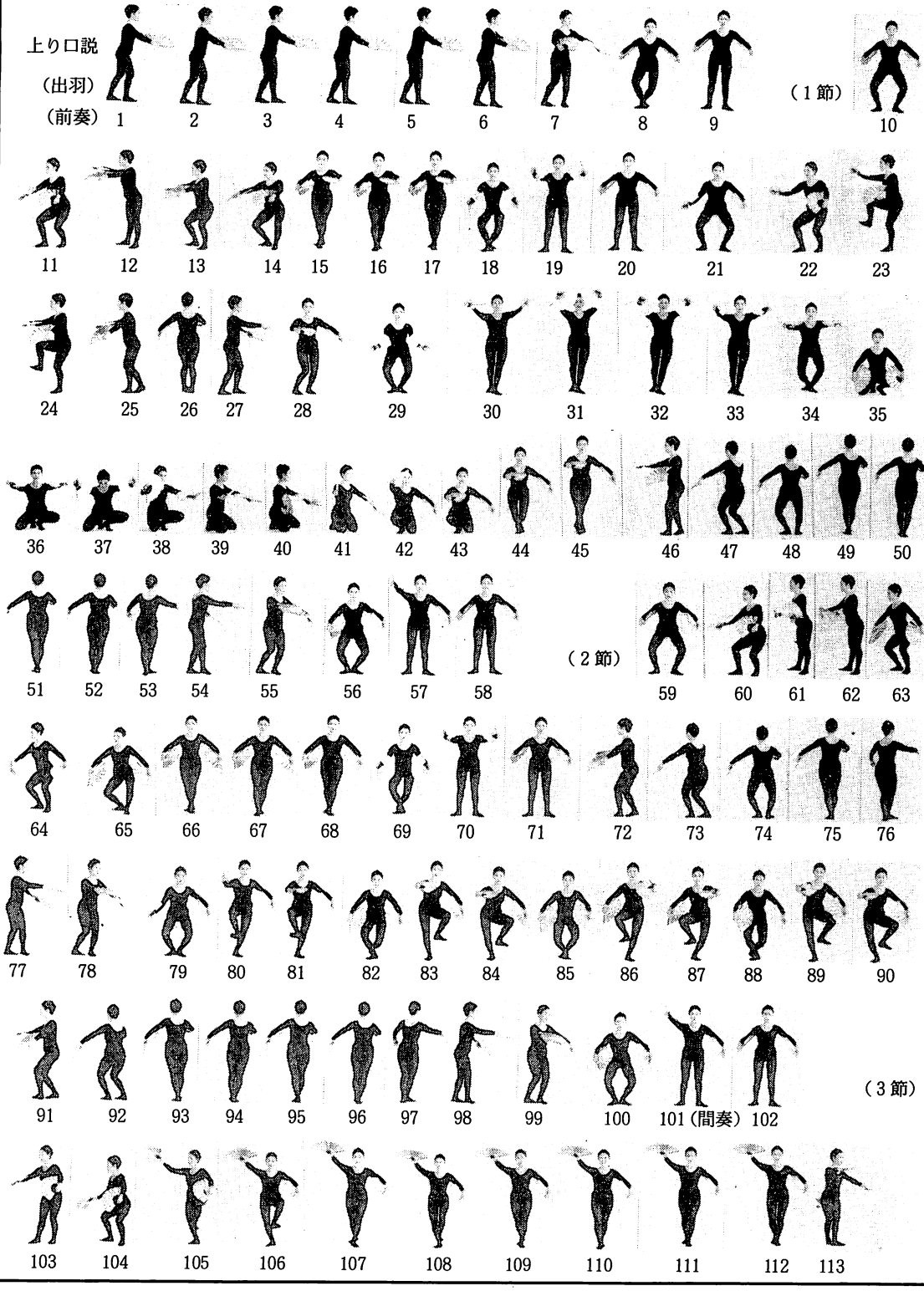
（入羽）

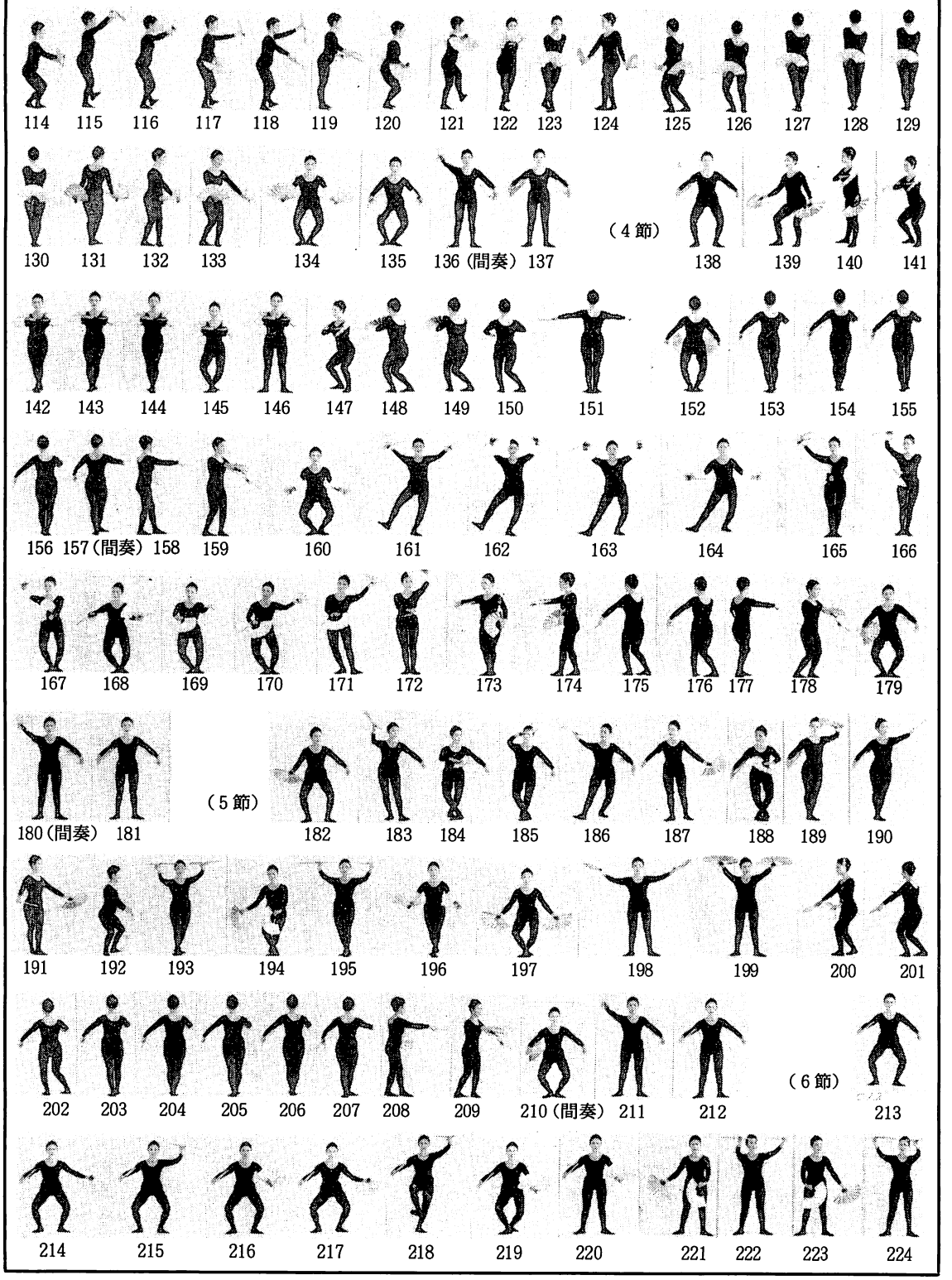


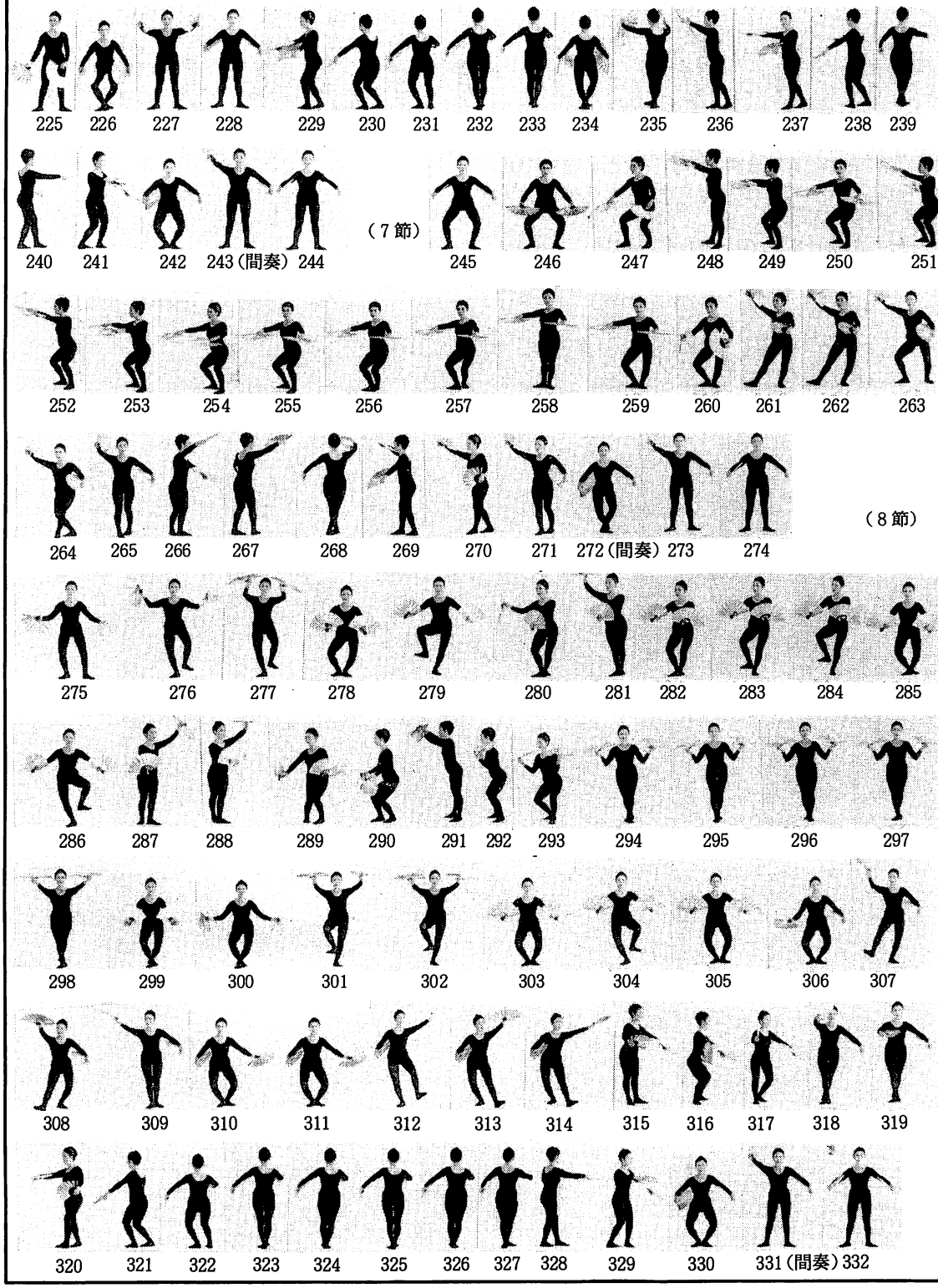
（後奏）　338　339　340　341　342　343　344　345　346　347　348　349

17. 上り口説譜(2)　レオタード扮装

上り口説
（出羽）
（前奏）

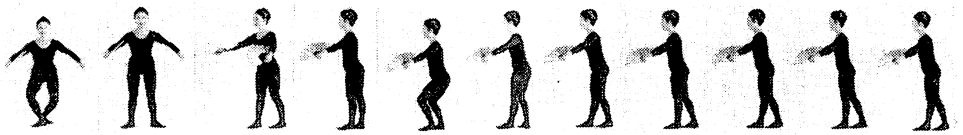



114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129
130 131 132 133 134 135 136（間奏） 137
（4節）
138 139 140 141
142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155
156 157（間奏） 158 159 160 161 162 163 164 165 166
167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179
180（間奏） 181
（5節）
182 183 184 185 186 187 188 189 190
191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201
202 203 204 205 206 207 208 209 210（間奏） 211 212
（6節）
213
214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224


225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239
240 241 242 243 (間奏) 244
(7節)
245 246 247 248 249 250 251
252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263
264 265 266 267 268 269 270 271 272 (間奏) 273 274
(8節)
275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285
286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297
298 299 300 301 302 303 304 305 306 307
308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319
320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 (間奏) 332

（入羽）

（後奏）

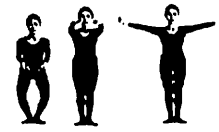


333　334　335　336　337　338　339　340　341　342　343

18. 男踊りの基本的技法と方法

①男立ち・八文字立ち

②男立ち・構え



③両手左右開きあげ

④右足突き

左足突き

④右足突き

左足突き

⑤⑥切り返し構え　切り返し右まわり

右足突き

左足突き

⑦⑧切り返し構え　切り返し右まわり

切り返し構え　右まわり

⑤⑥切り返し構え　切り返し右まわり

⑦左小まわり

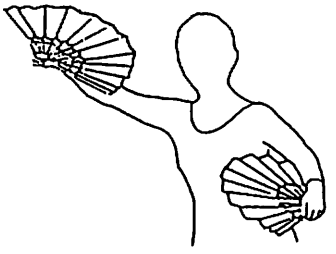
⑧右小まわり

右小まわり

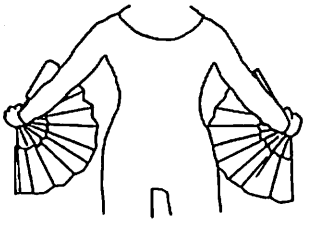
左小まわり

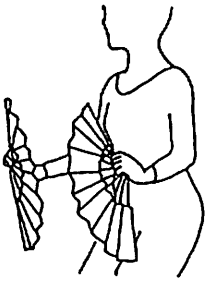
（踊り手　金城光子）

19. 両手扇の形，持ち方，構えの方法（例）

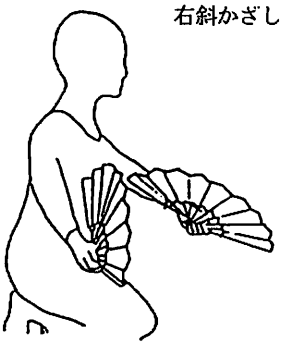


右斜かざし

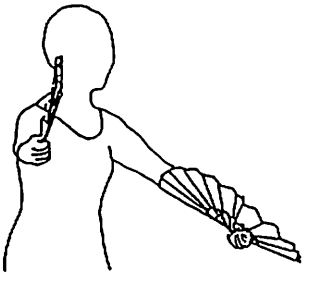




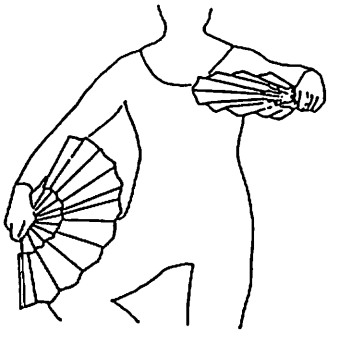
両手扇そろえ



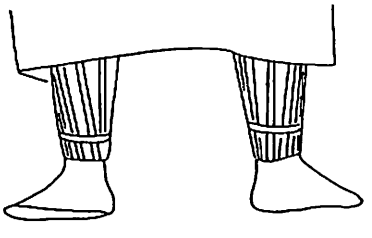
坐切り返し (1)



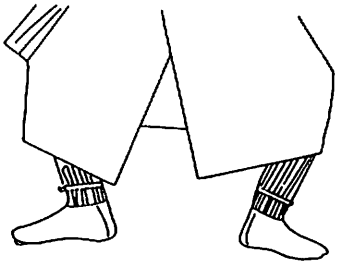
(2)



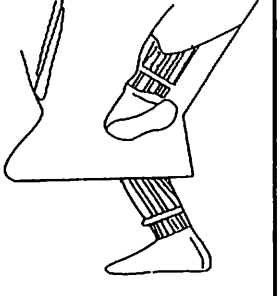
20. 男踊りの技法と手法の分析



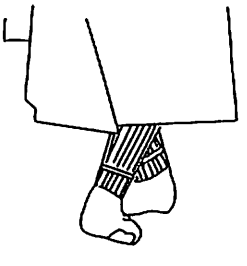
(1)　男立ち



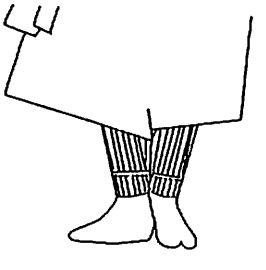
(2)　両膝割り



(3)　左足あげ



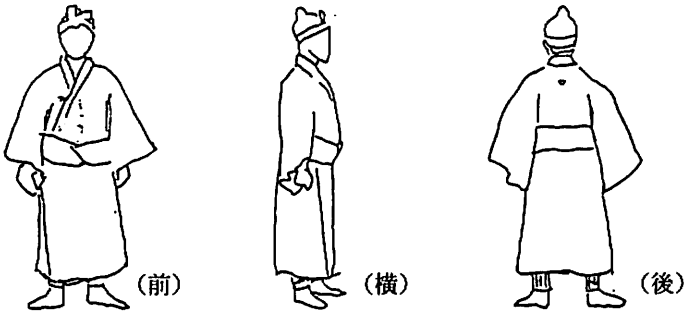
(4)　左足交差



(5)　右足突き

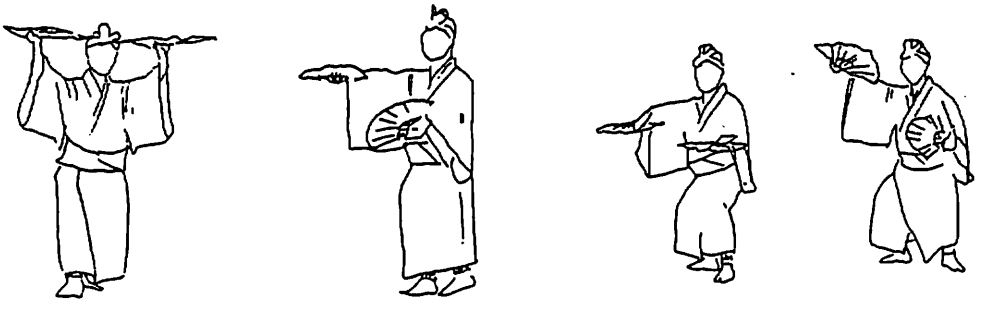
(6)　右足あげ下ろし

21—(1) 上り口説の技法の種類



男立ち：基本立ち

基本構え（前）　（横）　左足あげ右手あげ　右・左手あげ



両手あげ　ふり向く姿　波の表現　右手あげみる

右手あげみる　足拍子

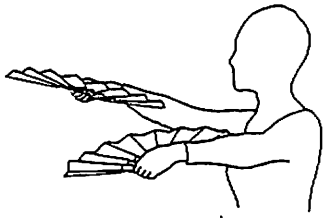
21—(2)　上り口説の技法の種類

〔1番〕

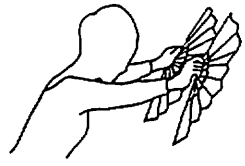
膝つき坐り

おじぎ

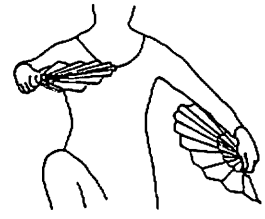
切り返り



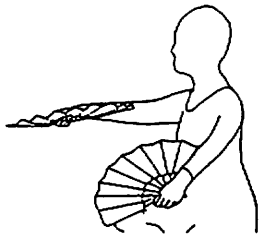
始　動



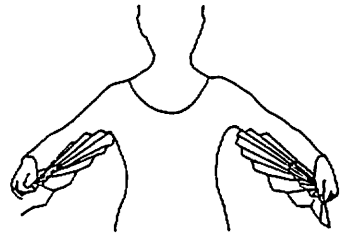
おじぎ



切り返し

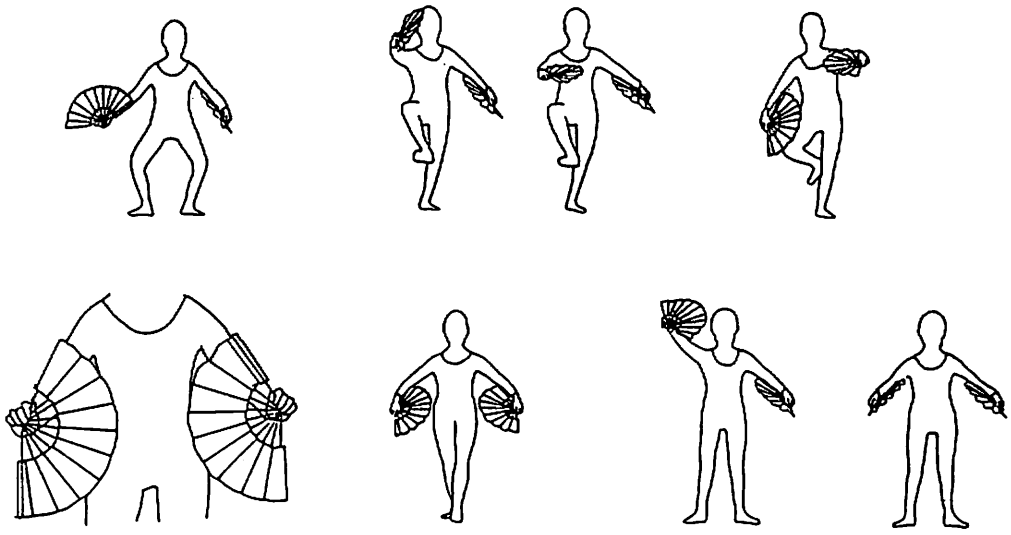


右回り

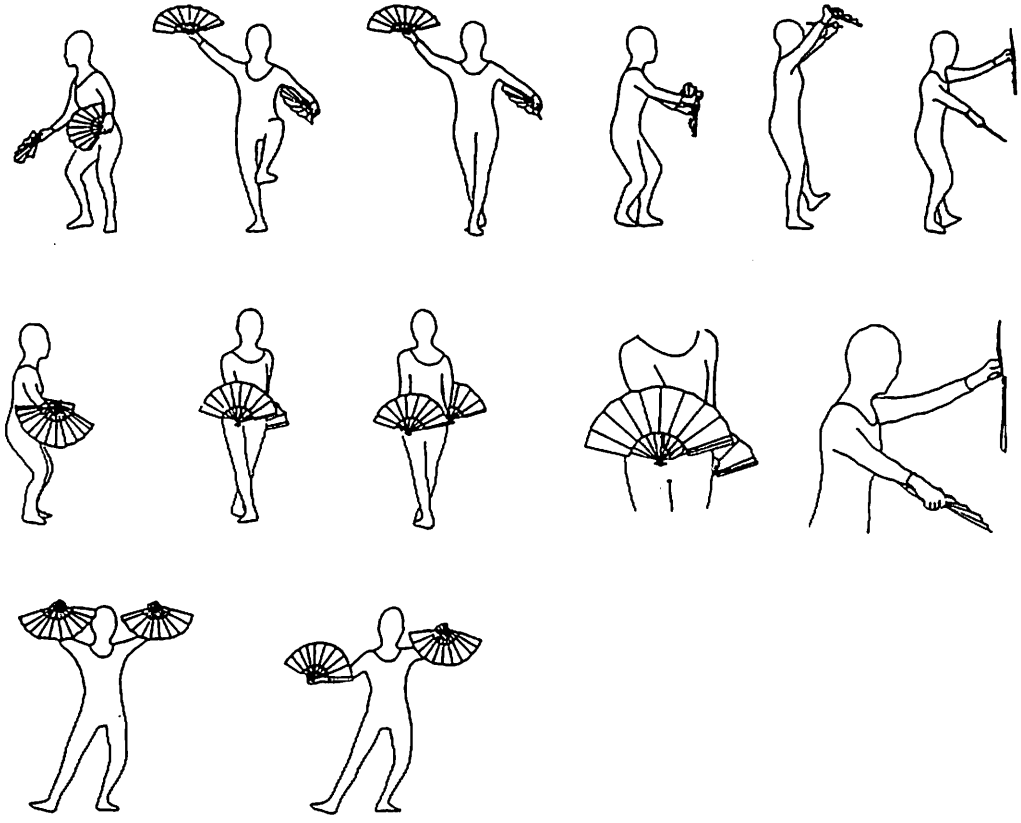


男立ち：基本立ち

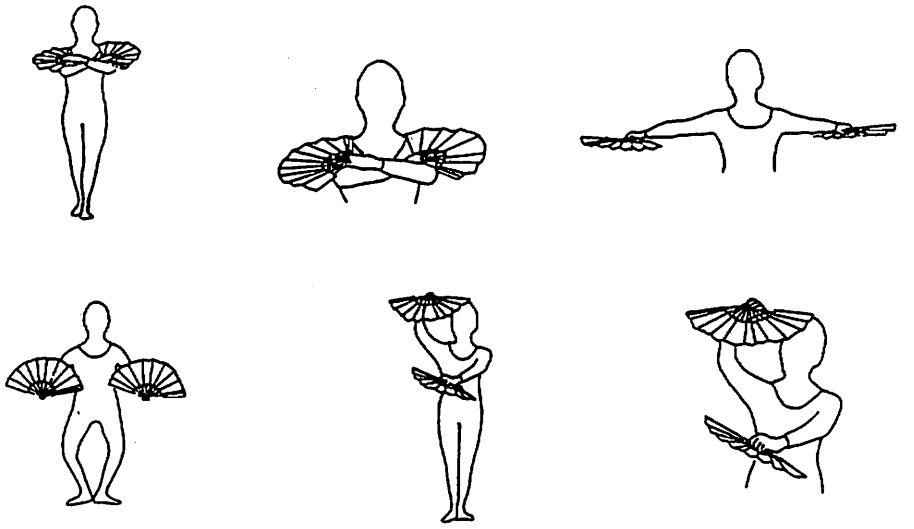
〔2番〕



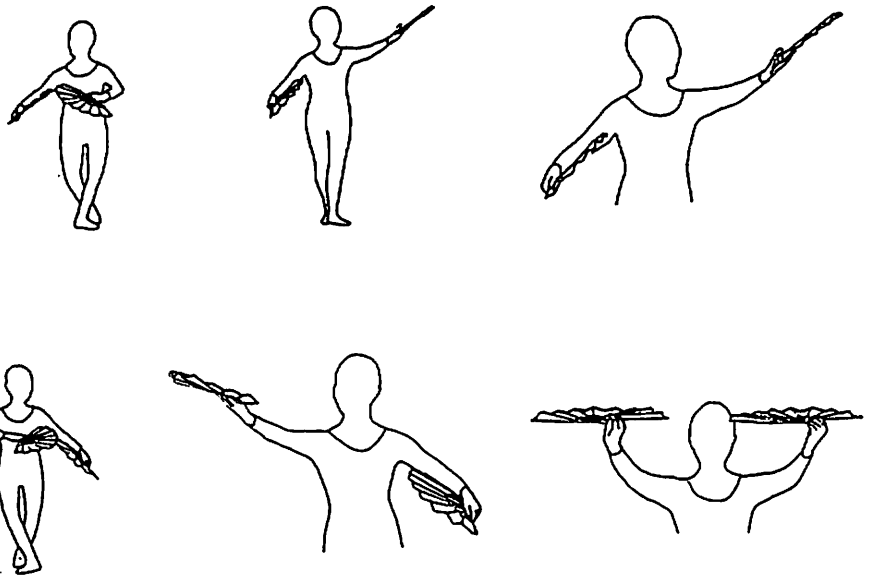
〔3番〕



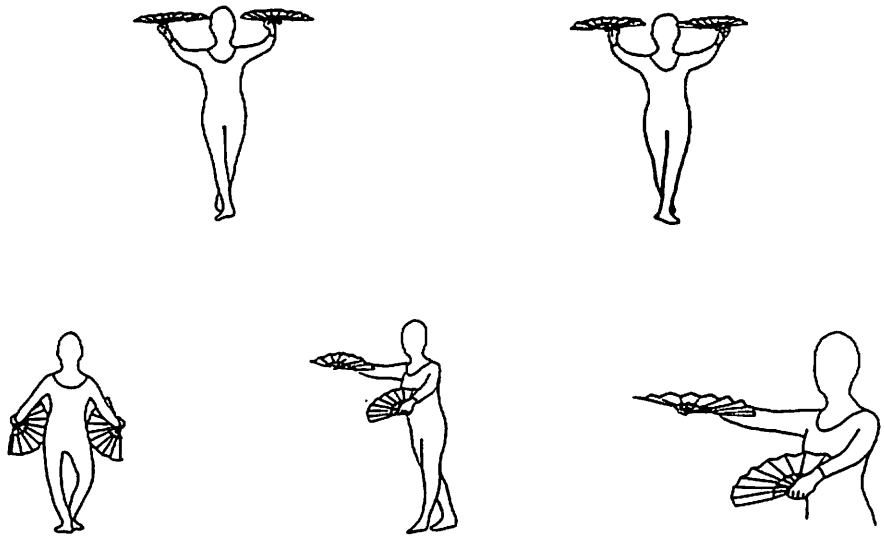
〔4番〕



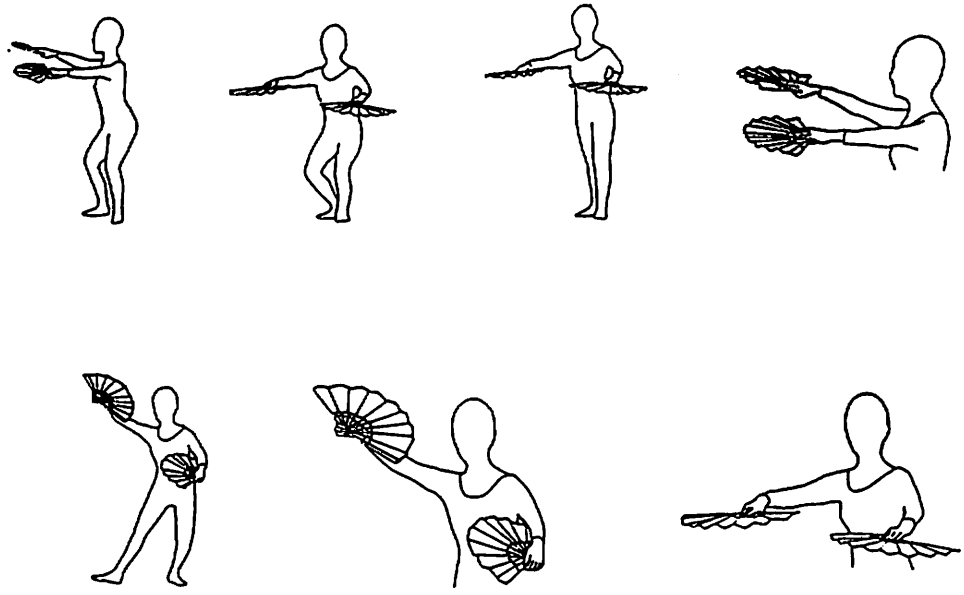
〔5番〕



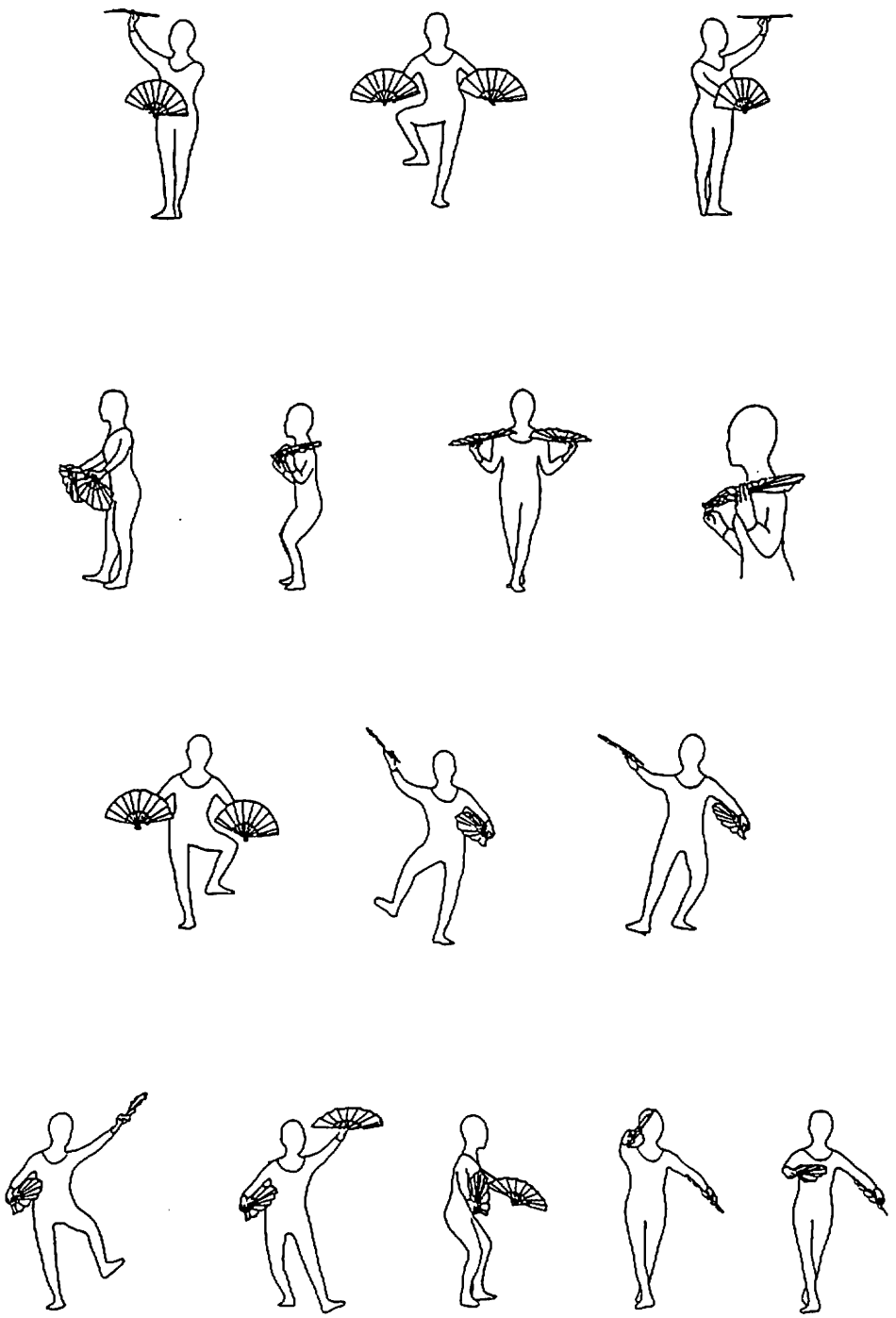
〔6 番〕



〔7 番〕



〔8番〕



口説（上り口説・下り口説）

一拍子六分九厘脈

(1-80)

繰返し

工	四	乙	四	合	工	上	合	五	七	五	工
尺	工	五	工	尺	工	老	上	尺	工	工	尺
五	工	尺	工	四	合	五	四	乙	四	上	四
乙	四	上	四	工	尺	工	合	尺	上	合	工
五	七	五	工	尺	工	四	工	上	四	尺	工
尺	工	工	合	工	四	尺	工	乙	合	工	尺
工	尺	尺	工	五	尺	工	五	尺	上	工	四
尺	工	合	工	尺	工	工	四	合	工	尺	工
工	五	七	五	工	尺	乙	上	四	工	合	四
工	四	乙	七	五	工	尺	工	合	尺	工	四
五	工	五	工	合	尺	工	老	上	合	尺	工
七	五	工	尺	工	五	上	上	四	工	四	工
工	工	尺	工	尺	工	尺	合	工	尺	工	四
尺	工	工	五	尺	工	工	尺	工	尺	工	四
五	五	四	四	工	合	上	工	尺	工	工	四
工	工	乙	七	五	工	尺	工	工	尺	工	四
尺	五	四	五	工	尺	工	工	工	工	工	四
老	四	乙	工	五	工	尺	五	乙	尺	五	工

(註) 下り口説 第一節は本曲オ三行目迄 上り口説とも最后の一句と歌い場合は四拍子 かぎやで風節下句の歌い方に同じ 印の次に左の十三拍子を加える。

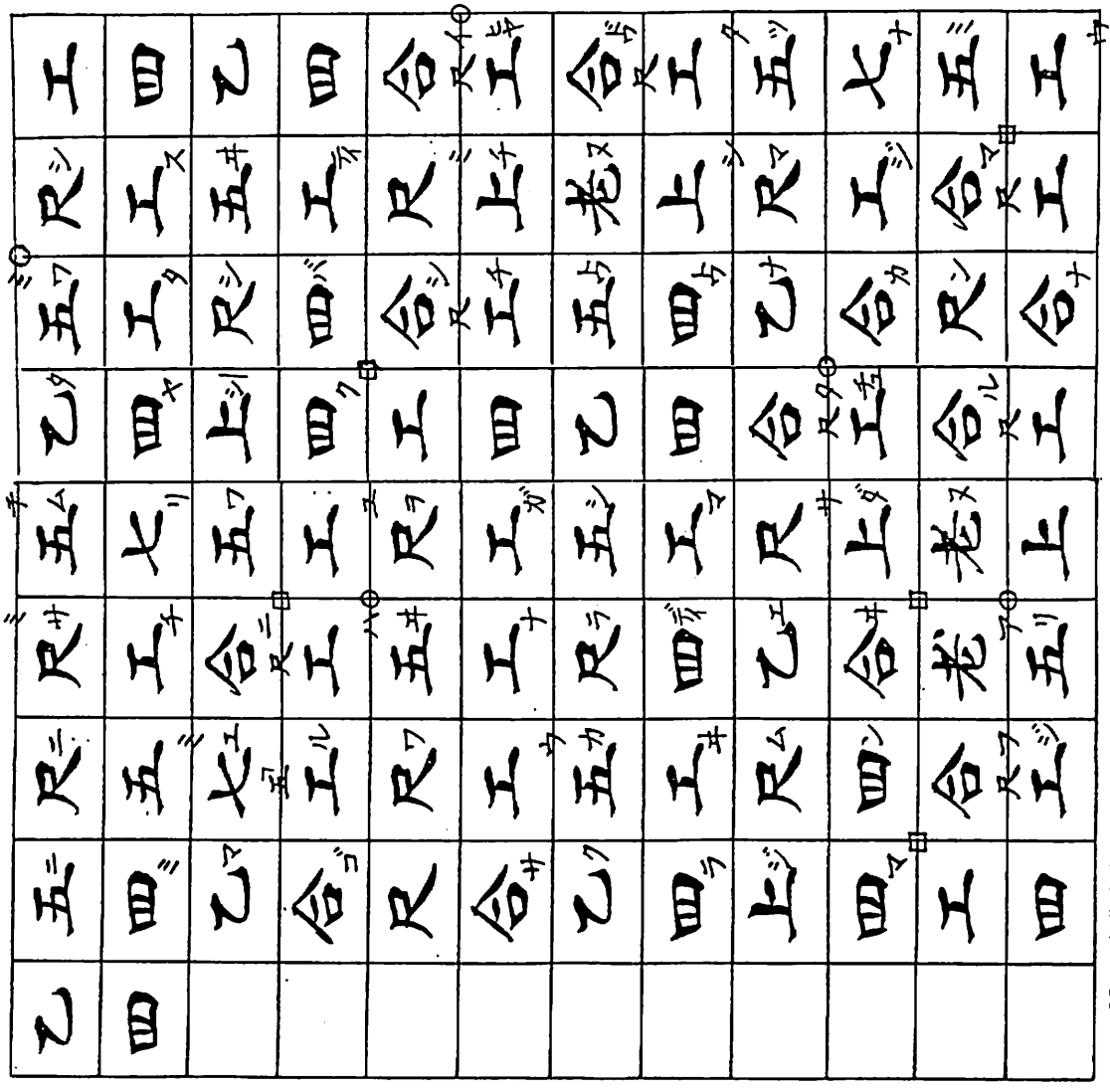
上り口説

一、旅の空で立つ観音堂 千手観音、伏し拝で 量金的とて立別る。
二、袖に降る露ぬし払ひ 大道松原 歩み行く 行けば 八幡宮元寺。
三、美栄地 高江打ち渡て 袖を連ねて諸人の 行くも 帰るも 中の橋、
四、沖の側まで親る尺寸 連れて別りる 後衣 袖と袖とに 露涙
五、船のとも綱 とく〳〵と 舟さす方みて 真帆引けば 見やまともに 二十六
六、スも過り 逢ふと縁とて 招く 南ヶ浦や 三重城 浜茂呼も 後に見て
七、伊平屋渡立つ波ぬし 那へて 道の島々 見渡せば 七島渡中も 雅安く
八、もえる煙や硫黄が島 佐多の岬とは 並で エイ

あれに見ゆるは 御南門 「富士に見まがふ 稀島
「いつの間に つきやが 山川 港」

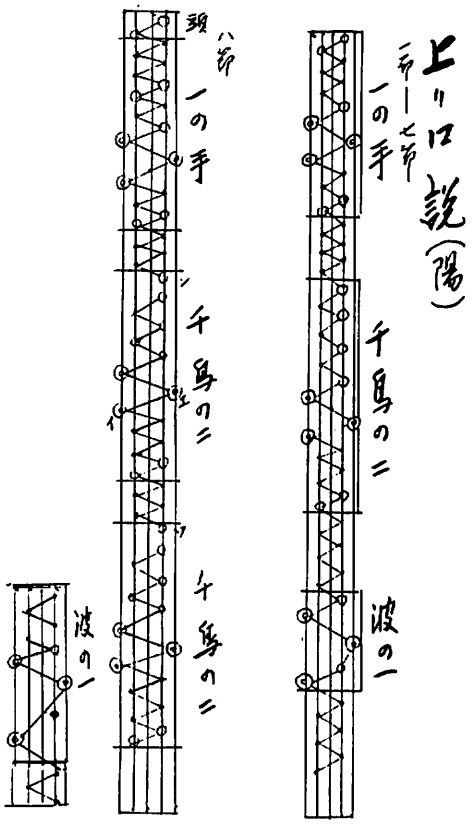
22. （野村流古典音楽保存会工工四）

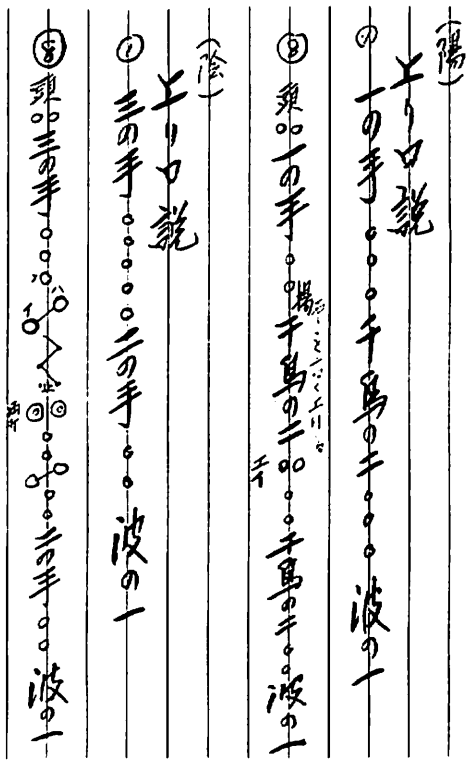
上の口説

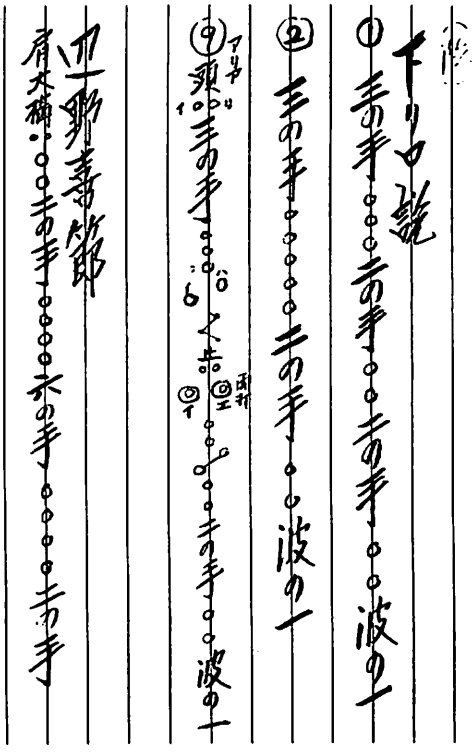


23.（古典音楽安冨祖流工工四）

24. 島袋光史：琉球太鼓打法と打法譜







（沖縄県立芸術大学音楽学部邦楽科非常勤講師
島袋光史創案　琉球太鼓譜）

文　　献

1）沖縄美術全集刊行委員会　沖縄タイムス社（1989）
2）琉球びんがた歴史と技法　琉球びんがた事業協同組合　三陽印刷　1987
3）芸術祭運営委員会　芸術祭総覧　沖縄タイムス社　1963
4）琉球古典舞踊の型　芸術祭運営委員会　沖縄タイムス社　1976
5）中山盛茂編集　琉球史辞典　琉球文教図書株式会社　1969
6）金城光子　沖縄の踊りの表現特質に関する研究　(2)古典女踊り「諸屯」について　琉球大学教育学部紀要第20集第２部　1976
7）金城光子　沖縄の踊り　(2)諸屯について～舞踊譜体系化をめざして～　教育学部紀要第20集第２部　1976
8）金城光子　沖縄の踊りの表現特質に関する研究　(4)古典女踊り「伊野波節」について　教育学部紀要第27部　1984
9）沖縄県工芸振興センター　沖縄の伝統工芸　新報出版印刷　1979
10）真栄田義見　三隅治雄　源武雄　沖縄文化史辞典　東京堂出版　1972
11）宜保栄治郎　琉球舞踊入門　那覇出版社　1979
12）沖縄伝統芸能の会　琉球舞踊一鑑賞の手引一　沖縄県商工労働部観光・文化局文化振興課　1985
13）陳武雄　台湾民俗文物図録　中華民国　70年６月　台中市立文化中心収蔵
14）山内盛彬　民俗芸能全集Ⅲ　琉球の舞踊と護身舞踊　民俗芸能全集刊行会（1963）
15）三隅治雄　沖縄の芸能　邦楽と舞踊刊（1969）
16）与那覇政牛　ふるさとの歌　南西印刷（1962）
17）金城光子　沖縄の民俗舞踊に関する研究　一運動表現特質について一　第24回九州体育会抄録（1974）
18）金城光子　沖縄の踊りの表現特質に関する研究　一古典女踊りについて一　第26回日本体育学会抄録　P 194（1975）
19）芸術祭運営委員会　芸術祭総覧　沖縄タイムス社（1963）
20）石野径一郎　琉歌つれづれ　株式会社　東邦書房（1973）
21）金城光子　沖縄の民俗舞踊に関する研究　～運動表現特質について～　第26回日本体育学会抄録　p 194　1975
22）金城光子　沖縄の踊りの表現特質に関する研究(1)　～古典舞踊「かぎやで風」について　琉球大学教育学部紀要　第19集第２部　pp51～67　1975
23）金城光子　沖縄の踊り(1)　～古典舞踊「かぎやで風」　～舞踊譜体系化をめざして～　琉球大学教育学部紀要　第19集第２部　pp 68～72　1975
24）金城光子　沖縄の踊りの表現特質に関する研究(2)　～古典舞踊「諸屯」について～　琉球大学教育学部紀要　第20集第２部　pp 117～162　1976
25）金城光子　沖縄の踊り(2)　～古典舞踊「諸屯」～舞踊譜の体系化をめざして～　琉球大学教育学部紀要　第20集第２部　pp 163～209　1976
26）金城光子　沖縄の踊りの表現特質に関する研究(2)　～男踊りについて～　第29回日本体育学会大会号　p 182　1977
27）金城光子　沖縄の踊りの表現特質に関する研究(3)　～古典舞踊「高平良万歳」について～　琉球大学教育学部紀要　第21集第２部　pp 33～96　1977
28）金城光子　沖縄の踊り(3)　～古典舞踊「高平良万歳」　～舞踊譜の体系化をめざして～　琉球大学教育学部紀要　第21集第２部　pp 97～158　1977
29）金城光子　沖縄の踊りの表現特質に関する研究(4)　～古典・女踊り「伊野波節」について～　琉球大学教育学部紀要　第27集第２部　pp 213～245　1984
30）金城光子　沖縄の踊り(4)　～古典舞踊・女踊り「伊野波節」　～舞踊譜の体系化をめざして～　琉球大学教育学部紀要　第26集第２部　pp 73～124　1983
31）金城光子・花城洋子　舞踊動作の表現リズムに関する研究　～琉球舞踊とインド舞踊のE

ＭＧパターンについて～　琉球大学教育学部紀要　第23集第２部　pp 61～86　1979
32）金城光子・花城洋子　舞踊動作の表現リズムに関する研究〔Ⅱ〕　～琉球舞踊・日本舞踊・インド舞踊の筋放電及び呼吸パターンについて～　琉球大学教育学部紀要　第24集第２部　pp 50～60　1980
33）金城光子・花城洋子　アジアの民族舞踊に関する比較舞踊学的研究　～舞踊動作の表現リズム〔Ⅲ〕　～琉球舞踊・日本舞踊・インド舞踊の筋放電及び呼吸パターンについて～　琉球大学教育学部紀要　第25集第２部　pp 49～91　1981
34）金城光子　沖縄の踊りの形式について　第25回九州体育学会抄録　p 58　1975
35）金城光子　沖縄の踊りの表現特質に関する研究　～古典女踊りについて～　第26回日本体育学会抄録　p 194　1975
36）東京国立文化財研究所編　改訂標準日本舞踊譜　創思社　1960
37）金城光子・大城宣武　東南アジア民族舞踊の印象空間；Ⅰ　琉球大学教育学部紀要　第28集第２部　pp 67～88　1985
38）金城光子　琉球舞踊の要素評定による認知体系　日本体育学会第30回大会号　p175　1979
39）舞踊の鑑賞構造に関する研究〔Ⅴ〕　～舞踊要素評定による琉球舞踊の認知体系　琉球大学教育学部紀要　第24集第２部　pp65～75　1980
40）金城光子　舞踊の鑑賞語・評価語　～琉球・沖縄舞踊の鑑賞語　琉球大学教育学部紀要　第17集第２部　pp 201～224　1973
41）金城光子編　学校における沖縄の踊り　沖縄の踊り教材研究会　サン印刷　1980
42）金城光子　舞踊における美への視点　九州大学出版会　1988
43）金城光子編　沖縄の踊り　～教材化の方法を求めて～　沖縄県女子体育連盟　コロニー印刷　1988
44）金城光子　琉球舞踊　ⅠⅡⅢⅣ　沖縄協会　第８回沖縄研究奨励賞受賞論文集　1986
45）野村流古典音楽保存会　野村流工工四　三ツ星印刷所　1969
46）宮里春行編纂兼発行者　琉球古典音楽　安富祖流工工四　みりおん印刷　1983
47）琉球箏曲保存会　琉球箏曲声楽譜付（三味線声楽譜添）　工工四　三ツ星印刷所　1978
48）仲里陽史子著作者　琉球箏曲興陽会　工工四　三ツ星印刷所　1974
49）金城光子　琉球舞踊譜(1)　～譜語と記号～　琉球大学教育学部紀要　第37集第２部　1990
50）金城光子　琉球舞踊譜(2)　～かぎやで風譜～　琉球大学教育学部紀要　第37集第２部　1990